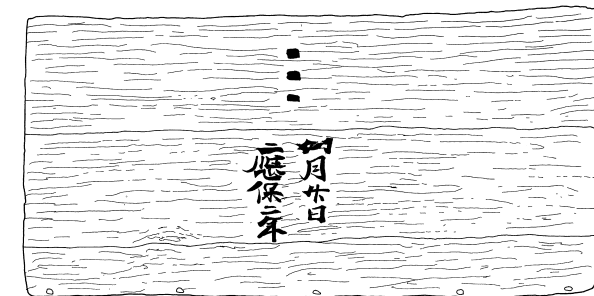


四條畷市文化財調査年報

第 6 号

中野遺跡 2



平成31（2019）年3月

四條畷市教育委員会

巻頭写真図版 1



1. 調査地区全景（南から）



2. 井戸 2（西から）

卷頭写真図版2



1. 井戸2出土遺物集合

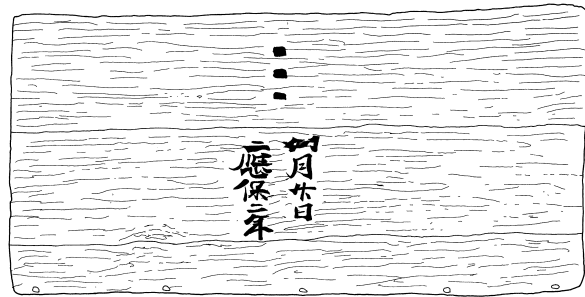


2. 井戸2出土應保二年銘曲物

四條畷市文化財調査年報

第 6 号

中野遺跡 2



平成31（2019）年3月

四條畷市教育委員会

例 言

1. 本書は、四條畷市文化財調査年報の第6号であり、四條畷市文化財調査報告の第57集である。本書には、平成3(1991)年11月から平成4(1992)年1月にかけて市役所東別館建設工事に伴い(N N1991-1)、また平成12(2000)年5月に市役所駐車場擁壁設置工事に伴い(N N2000-1)、中野遺跡で実施した埋蔵文化財発掘調査の報告を掲載する。
2. 中野遺跡(N N1991-1)の発掘調査、および中野遺跡(N N2000-1)の発掘調査は、いずれも四條畷市長からの依頼を受け、四條畷市教育委員会が調査を実施した。調査期間等は本文中に記載している。
3. 中野遺跡(N N1991-1)の発掘調査は、四條畷市教育委員会歴史民俗資料館主査 野島 稔の指導のもと、技術職員 村上 始を担当者として実施した。中野遺跡(N N2000-1)の発掘調査は、四條畷市教育委員会生涯学習推進室主任 野島 稔を担当者として実施した。(肩書はいずれも当時)
4. 発掘調査実施にあたっては、地元自治会から多大なる御配慮・御協力を得た。記して厚く感謝の意を表したい。
5. 発掘調査の進行・本書の作成・出土遺物の鑑定などにあたっては、以下の方々から御指導・御協力を得た。厚く感謝の意を表したい。
奈良文化財研究所、大阪府教育庁文化財保護課、櫻井敬夫氏(故人)、瀬川芳則氏(元関西外国語大学教授)、渡辺晃宏氏・馬場 基氏(奈良文化財研究所)、野島 稔氏(四條畷市立歴史民俗資料館館長)、佐野喜美氏(前四條畷市立歴史民俗資料館館長)。(順不同)
6. 出土遺物の整理・図面作成などは、調査当時の一次整理に加え、四條畷市教育委員会生涯学習推進課上席主幹兼主任 村上 始、主査 實盛良彦が、臨時職員 田伏美智代、藤井信之の協力を得て行った。
7. 本書は、村上・實盛が、分担して執筆・編集を行った。文責者は各文末に記載している。
8. 発掘調査の出土遺物および記録した写真・実測図面等は四條畷市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 本書中のレベルは、T.P.(東京湾平均海面)を用いた。
2. 土色の色調は、1998年度版『新版 標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修に準拠した。
3. 報告図面の表示方位は、いずれも調査当時標準であった(旧)日本測地系の国土座標(第VI座標系)に基づく座標北である。

本文目次

卷頭写真図版

例言・凡例

目次

第1章 遺跡の位置と歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

第1節 遺跡の位置

第2節 周辺の歴史的環境

第2章 調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

第1節 既往の調査

第2節 調査の経過

第3章 中野遺跡（N N1991-1・2000-1）調査の成果・・・・・・・・・・・・ 14

第1節 基本層序

第2節 検出遺構

第3節 出土遺物

第4章 調査のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47

第1節 調査のまとめ

参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

| | | |
|------|--|-------|
| 第1図 | 周辺遺跡分布図 | 8 |
| 第2図 | 調査地区位置図 | 13 |
| 第3図 | 調査地区平面図 | 15~16 |
| 第4図 | 調査地区断面図 | 17~18 |
| 第5図 | 土坑107遺物出土状況図 | 19 |
| 第6図 | 遺物出土状況図（土坑133・134） | 20 |
| 第7図 | 溝4遺物出土状況図 | 21 |
| 第8図 | 井戸1平面図・断面図 | 23 |
| 第9図 | 井戸2上層（土坑102）遺物出土状況図 | 24 |
| 第10図 | 井戸2平面図・断面図 | 25 |
| 第11図 | 出土遺物（包含層） | 28 |
| 第12図 | 出土遺物（石製品・金属製品等） | 29 |
| 第13図 | 出土遺物（土坑101・108・110・130・133・136・Pit178） | 31 |
| 第14図 | 出土遺物（土坑107） | 34 |
| 第15図 | 出土遺物（土坑107） | 35 |
| 第16図 | 出土遺物（溝4） | 37 |
| 第17図 | 出土遺物（井戸2（土坑102）） | 41 |
| 第18図 | 出土遺物（井戸2（土坑102）） | 43 |
| 第19図 | 出土遺物（土坑202） | 45 |

写 真 図 版 目 次

- 巻頭写真図版1 1. 調査地区全景（南から）
2. 井戸2（西から）
- 巻頭写真図版2 1. 井戸2出土遺物集合
2. 井戸2出土應保二年銘曲物
- 写真図版1 1. 調査前全景（南から）
2. 第1遺構面全景（南東から）
- 写真図版2 1. 第1遺構面近景（南西から）
2. 土坑107遺物出土状況（西から）
- 写真図版3 1. 土坑133遺物出土状況（南西から）
2. 土坑134石組検出状況（東から）
- 写真図版4 1. 溝4遺物出土状況（北西から）
2. 井戸1全景（南東から）
- 写真図版5 1. 井戸1井戸枠内検出状況（西から）
2. 井戸1断ち割り状況（西から）
- 写真図版6 1. 井戸2上層（土坑102）遺物出土状況（南東から）
2. 井戸2井戸枠内検出状況（西から）
- 写真図版7 1. 井戸2断ち割り状況（北から）
2. 第2遺構面全景（北西から）
- 写真図版8 1. 出土遺物（包含層）
2. 出土遺物（石鍋）
3. 出土遺物（砥石）
- 写真図版9 1. 出土遺物（砥石）
2. 出土遺物（紡錘車）
3. 出土遺物（井戸2砥石）
4. 出土遺物（井戸2青白磁合子）
- 写真図版10 1. 出土遺物（銅銭・巡方）
2. 出土遺物（滑石製品）
- 写真図版11 1. 出土遺物（土坑101）
2. 出土遺物（土坑108・110・130・136・Pit178）
- 写真図版12 1. 出土遺物（土坑133）
2. 出土遺物（土坑107）
- 写真図版13 1. 出土遺物（土坑107）
2. 出土遺物（土坑107）

- 写真図版14
1. 出土遺物 (土坑107)
 2. 出土遺物 (土坑107)
- 写真図版15
1. 出土遺物 (溝4)
 2. 出土遺物 (溝4)
- 写真図版16
1. 出土遺物 (溝4製塩土器)
 2. 出土遺物 (井戸2 (土坑102))
- 写真図版17
1. 出土遺物 (井戸2 (土坑102))
 2. 出土遺物 (井戸2曲物・墨書発見時)
- 写真図版18
1. 出土遺物 (井戸2曲物・赤外線写真)
 2. 出土遺物 (土坑202)

第1章 遺跡の位置と歴史的環境

第1節 遺跡の位置

四條畷市は、大阪府の北東部に位置する。市のほぼ中央部に、生駒山に続く飯盛山系がそびえ、市を東の田原盆地と西の平野地区に分けている。飯盛山系から西に向かって、讃良川・岡部川・清滝川・権現川が流れている。生駒山系の西側斜面の枚方台地は、北は京都府八幡丘陵から南は四條畷市南野丘陵までの淀川左岸にひろがる広大な丘陵・段丘があり、北から枚方市船橋川・穂谷川、交野市天野川、寝屋川市寝屋川、四條畷市讃良川・清滝川などの中小河川によって開かれている。中野遺跡は、飯盛山系の西側の山裾部に位置する遺跡である。

第2節 周辺の歴史的環境

中野遺跡の周辺の遺跡では、旧石器時代からの各時代の遺構・遺物がみつまっている（第1図）。

旧石器時代 讃良川床遺跡では旧石器時代の握斧・ナイフ形石器・細石刃・削器・彫器などが出土している（櫻井1972）。また、忍岡古墳付近では、縦長剥片を用いたナイフ形石器が採集されている（片山1967a）。岡山南遺跡では、後期旧石器時代後半の木葉形尖頭器が出土している（野島・藤原・花田1976）。

縄文時代 縄文時代草創期の有茎尖頭器が南山下遺跡（野島1978b）、四條畷小学校内遺跡（野島1994c）、木間池北方遺跡（村上1997a）などでみつまっている。讃良郡条里遺跡の第二京阪道路調査地では縄文草創期末からの各時期の遺物が出土しており、石器製作跡も検出されている（井上ほか編2003、佐伯ほか編2007、井上編2008等）。南山下遺跡では中期の集落跡が検出されている（野島1978b、1988）。

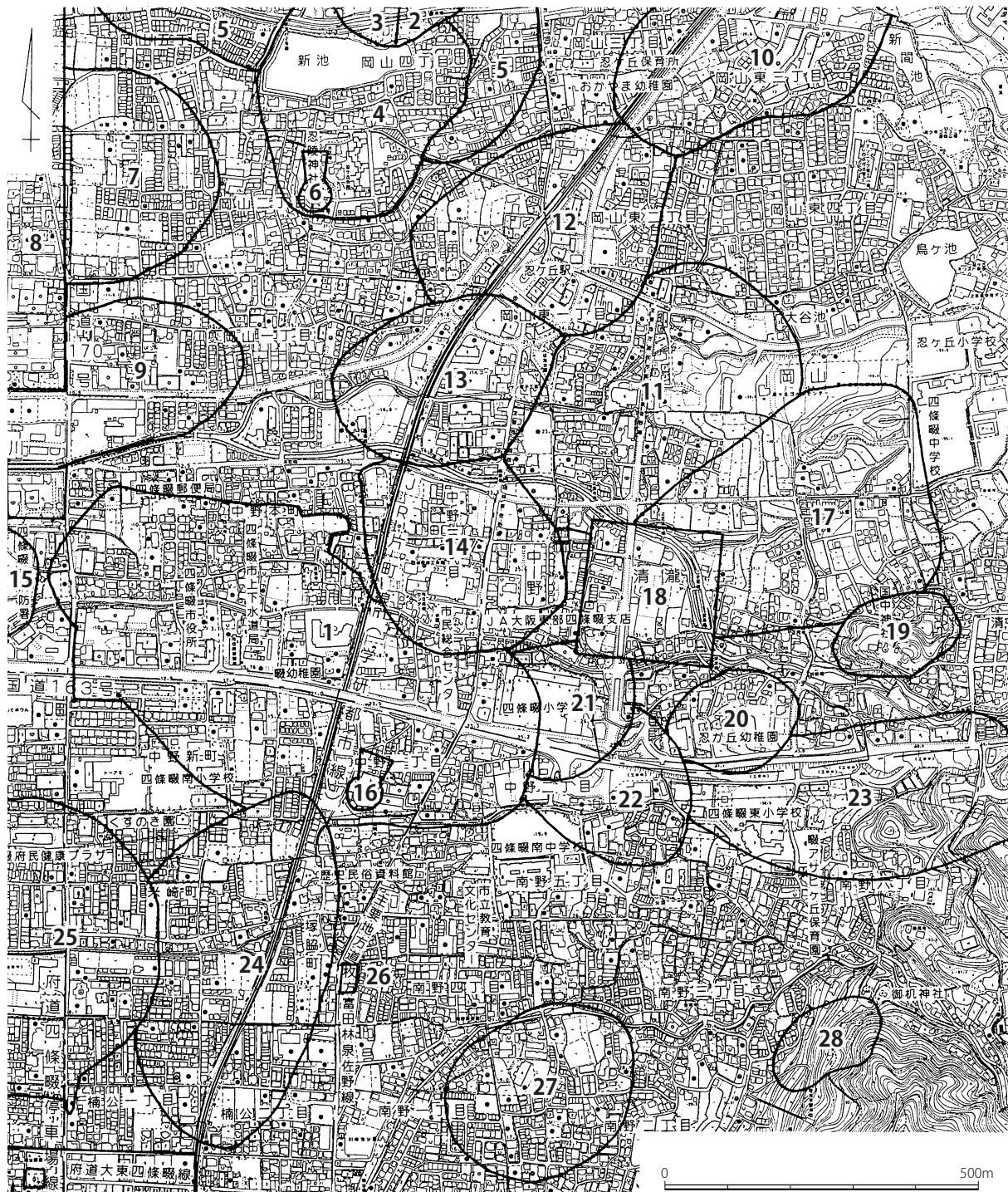
砂遺跡では中期から晩期の集落跡がみつまっている（宮野1992、四條畷市教育委員会編2008）。集落内にはイノシシ等動物の足跡が残されていた。晩期では土偶等も出土している。

後期・晩期の遺跡として更良岡山遺跡がある。寝屋川市の讃良川遺跡に東接しており集落の中心が移動したものとみられ、北陸からの大型彫刻石棒・ヒスイ製祭祀具をはじめ、土偶などの祭祀用品、土器類や多量の石器類が出土した。また晩期の土壙墓が複数確認されている（片山1967b、桜井1972、宮野1992、野島編2000）。

弥生時代 弥生前期初頭の土器が縄文晩期の突帯文土器とともに讃良郡条里遺跡の2005年の調査でみつまっている（中尾ほか編2009）。ここでは炭化米も出土しており、北河内地域における稲作の初現を示す遺物として重要である。讃良郡条里遺跡ではこれら以外にも前期から後期までの水田・微高地上の集落が検出されている（後川・實盛・井上編2015）。

雁屋遺跡は弥生前期から後期にわたって続く拠点集落である。前期では板付Ⅱ式併行期に属する大形壺の出土や（野島1984a）、集落の検出がある（村上2001f）。中期では初頭から後葉までの方形周溝墓群が各調査で検出され、保存状態の良いコウヤマキ・ヒノキ・カヤ製の木棺のほか、朱塗り土器・蓋付木製四脚容器やタンカ状木製品、鳥形木製品などが出土している（辻本1987、野島1987a、野島1994a、阿部1999）。焼失竪穴住居や掘立柱建物、貯木施設も検出され、分銅形土製品やト骨、銅鐸の舌や播磨地域の土器などが出土している（野島1994a、村上・實盛2011）。また2011年の調査ではサヌカイト埋納土坑を検出している。後期でも、竪穴住居群や方形周溝墓などが検出され（野島1987a、阿部1999）、丹後・近江・出雲・山陰地域系の土器類などを含む多くの遺物が出土している（三好ほか2007）。雁屋遺跡の銅鐸舌と関連するものとして、明治44年に四條畷の「砂山」から入れ子になった銅鐸2口が出土したと伝えられ（梅原1985）、現在関西大学が所蔵している。

鎌田遺跡では弥生時代中期の方形周溝墓が5基みつまっている（野島1994b）。1号方形周溝墓には墳丘のほぼ中心に埋葬施設が1基あり、コウヤマキの組合式木棺材が残存していた。2号方形周溝墓の周溝からは完形の打製石剣が出土した。



第1図 周辺遺跡分布図

- | | | | |
|---------------|-------------|-------------|-------------|
| 1. 中野遺跡 | 2. 讃良川床遺跡 | 3. 讃良寺跡 | 4. 更良岡山古墳群 |
| 5. 更良岡山遺跡 | 6. 忍岡古墳 | 7. 北口遺跡 | 8. 讃良郡条里遺跡 |
| 9. 奈良田遺跡 | 10. 坪井遺跡 | 11. 岡山南遺跡 | 12. 忍ヶ丘駅前遺跡 |
| 13. 南山下遺跡 | 14. 奈良井遺跡 | 15. 鎌田遺跡 | 16. 墓ノ堂古墳 |
| 17. 清滝古墳群 | 18. 正法寺跡 | 19. 国中神社内遺跡 | 20. 大上遺跡 |
| 21. 四條畷小学校内遺跡 | 22. 木間池北方遺跡 | 23. 城遺跡 | 24. 南野米崎遺跡 |
| 25. 雁屋遺跡 | 26. 伝和田賢秀墓 | 27. 南野遺跡 | 28. 近世墓地 |

このほか四條畷小学校内遺跡で前期の石敷き遺構が(野島1994c)、部屋北遺跡で中期の集落・方形周溝墓が(岩瀬編2012)、中野遺跡で中期の方形周溝墓が検出されている(村上・實盛2018)。

古墳時代 讃良川流域で古墳時代前期中頃に全長約87mの前方後円墳である忍岡古墳が築造されている(梅原1937)。主体部は竪穴式石室(石槨)で、碧玉製の石釧・鍬形石・紡錘車、鉄剣、鉄鎌、小札片など副葬品の一部が出土している。

この古墳に伴うとみられる前期の集落は、讃良郡条里遺跡で微高地上の集落が検出されている(井上編2008、近藤ほか編2006、佐伯ほか編2007、後川・實盛・井上編2015)。また岡山南遺跡でも集落を検出している(村上・實盛2016)。

中期の古墳としては、全長約62mの前方後円墳である墓ノ堂古墳があり、立会調査で円筒埴輪片が出土している(野島1997c、櫻井・佐野・野島2006)。忍ヶ丘駅前1号墳では琴を弾く男性埴輪が出土している(野島1993a、1997a)。清滝古墳群(野島1980a)や大上古墳群(村上・實盛編2017)、更良岡山古墳群(野島1981)などは中期から後期まで続く馬飼い集団の墓域とみられる。中でも城遺跡内の大上3号墳は周溝を含めた全長が約45mある後期の帆立貝形古墳で、主体部は削平されていたが周溝と埴丘の一部を検出し、原位置を保つ葺石や円筒埴輪が出土した(村上2006)。清滝古墳群2号墳は、直径20mの円墳で、周溝に馬が埋葬されていた(野島1980a)。大上5号墳は横穴式石室を主体とし、鎌倉時代に盗掘されていたが、金銅装中空耳環が1点出土した(野島1999、四條畷市教育委員会編2002)。

JR忍ヶ丘駅付近では集落から中期の形象埴輪が多く出土している。忍ヶ丘駅前遺跡で人物埴輪・子馬形埴輪・水鳥形埴輪(櫻井・佐野・野島2006、2010等)、南山下遺跡で馬形埴輪(野島1987c、d)、岡山南遺跡で家形埴輪が出土している(野島1982)、一緒に左足用の木製下駄も出土している(野島1979a、1982、瀬川1992)。

古墳時代における四條畷の大きな特徴は、中期に馬の飼育が始まったことである。古墳時代中期以降この地域では全域で渡来系の人々が多く居住していたとみられ、広範に馬飼も行われており、奈良田遺跡(野島1980c、野島・村上2000)、中野遺跡・四條畷小学校内遺跡(村上2000等)、城遺跡・大上遺跡(村上2006)、南野米崎遺跡(野島1985、1987e、1991、四條畷市教育委員会編2004)などの集落遺跡で馬骨・馬歯をはじめ陶質土器、初期須恵器や韓式土器等が数多く出土している。讃良郡条里遺跡で5世紀初頭の馬骨の出土がみられ(中尾ほか編2009)、部屋北遺跡では馬具の鍔・ハミ・鞍や、井戸枠に再利用された準構造船、埋葬馬が完全な姿で出土しており、河内湖岸の集落とみられる(岩瀬ほか編2010、岩瀬編2012)。鎌田遺跡では溝からスリザサラや木鎌、祭具を載せる台等の祭祀遺物が出土し(村上2001c、d、e)、奈良井遺跡では方形周溝状の祭祀施設遺構を検出し、犠牲馬の首や人形・馬形土製品等が出土している(野島1980b、野島・村上2000、野島・村上・實盛2012)。これらの人々を支えた生産遺跡として、鎌田遺跡や讃良郡条里遺跡では水田跡がみついている(野島1993b、中尾ほか編2009等)。讃良郡条里遺跡の2011年度の調査では水路の堤防構築に敷葉を使った工法が用いられていた(後川・實盛・井上編2015)。北口遺跡では緑色凝灰岩質の石核が出土し、中期に玉類の製作が行われたとみられる(村上・實盛2014)。

古代以降 正法寺跡は、7世紀に創建された寺院跡で、これまでの調査で中門、塔、講堂などの存在が確認されており、平安時代ごろの建物はいずれも石積み、あるいは瓦積みの基壇建物である(大阪府教育委員会編1970)。一方、創建当時の建物の多くは掘立柱建物であった(村上2001a)。ただし、中門は礎石建物で(野島・藤原・花田1977)、塔は石積みの遺構を伴っていた(大阪府教育委員会編1970)。また回廊の南西部分にあたと推定される位置の瓦だまりから創建時の鴟尾片が出土している(野島・村上2002)。

讃良寺跡は1969年に部分的に調査され、暗渠の可能性のある瓦敷きなどを検出し、7世紀の創建であることが分かった(桜井1972、櫻井・佐野・野島2006、2010)。1997年の調査では正法寺跡のものと同範の素弁八葉蓮華文軒丸瓦が出土しており(野島編2000)、文様に型起因の摩耗がみられることから、讃良寺のものが後に作られたと考えられている(野島1997b)。

飛鳥～奈良時代には寺跡の近辺を中心に集落跡がみついている。正法寺近辺では河川跡の数箇所土馬を使った祭祀がおこなわれており、木間池北方遺跡で円面硯や土器と共に土馬が7体出土した(村上2006)。木間池北方遺跡で「□万呂」(村上2006)、南野遺跡では「大」の字を墨書した土器が出

土している（野島1995）。讃良郡条里遺跡では小型海獣葡萄鏡が出土しており、有力者が祭祀に用いたとみられる（後川・實盛・井上編2015）。また、讃良郡条里遺跡では奈良時代に遡る条里制地割が検出されており、初期の条里制地割施行例として注目される（中尾・山根編2009）。

平安時代には中野遺跡や、岡山南遺跡、讃良郡条里遺跡のほか、四條畷小学校内遺跡（村上2000）、木間池北方遺跡（村上2006）、葦屋北遺跡（岩瀬ほか編2010）などで集落が検出されている。中野遺跡では「日置」と墨書された土師器坏や（村上2006）、「應保二年如月廿日」と書かれた墨書曲物井戸杵が出土している（村上2003）。岡山南遺跡では掘立柱建物群が検出されており（野島・藤原・花田1976、野島1987b）、井戸からは「高田宅」「福万宅」などの墨書土器が出土している（野島1987a）。讃良郡条里遺跡では皇朝十二銭を用いた溝内祭祀跡を検出している（後川・實盛・井上編2015）。

大阪から奈良へと向かう街道のひとつである清滝街道を、飯盛山系の西麓まで下りきらない地点には、延喜式神名帳に記載される式内社の国中神社が鎮座している。四條畷市内には、他に御机神社と忍陵神社が式内社としてあげられるが、延喜式の時代から場所を変えずに残っている神社はこの国中神社だけである。

鎌倉時代から室町時代にかけては、奈良井遺跡（村上2003a）、南山下遺跡（野島・村上2001、村上2001b）、岡山南遺跡（野島・藤原・花田1976、野島1982、野島・前田1984、野島1987b、村上2004、村上・實盛2013a）、中野遺跡（野島1977、1986b、西尾1987）、忍ヶ丘駅前遺跡（野島1983、村上1997b）、四條畷小学校内遺跡（村上2000）、大上遺跡（村上2006）木間池北方遺跡（村上1997a）、南野遺跡（野島1995）、葦屋北遺跡（岩瀬ほか編2010）、讃良郡条里遺跡（後川・實盛・井上編2015）、南野米崎遺跡、楠公遺跡、葦屋遺跡等で集落跡等がみついている。坪井遺跡では鎌倉時代の鍛冶工房の跡とそれに伴う土壇墓がみつかり（野島1996a、b）、工房跡では鍛冶炉・金床石、井戸などの施設が検出されている。

南北朝時代に四條畷付近では、四條畷の合戦が行われたとされている。南朝方の実質的大将で若くして戦死した楠正行のものと、その一族の和田賢秀のものと伝わる墓があり、いずれも大阪府指定の史跡となっている。

戦国時代には、三好長慶が飯盛城を拠点に畿内・四国の一部を支配し室町幕府の実権を握った。遺跡としての飯盛城跡はこれまでに大東市教育委員会によって調査が行われ、土塁や柵の跡が検出されている（黒田1989）。平成23年度には城跡の詳細な縄張図が測量・作成されている（村上・實盛編2013、黒田2013、大東市教育委員会・四條畷市教育委員会2013）。

室町時代後期の16世紀中頃に讃良郡条里遺跡内の大將軍社が創建され、明治44年に式内社の忍陵神社に合祀されるまで地域の尊崇を集めた。発掘調査では御正躰あるいは奉納されたとみられる柴垣柳樹双鳥鏡が出土したほか、近世から近代に属する大量の灯明皿が出土し、文献に記録されていた「百灯明」の祭りの存在が裏付けられている（後川・實盛・井上編2015）。

（實盛良彦）

第2章 調査の経過

第1節 既往の調査

中野遺跡は、四條畷市中野本町・中野新町・中野一～三丁目に広がる遺跡で、古墳時代・中世の集落跡である。この遺跡は1977年に大阪瓦斯天然ガス管理設工事に伴い発見され、中世の石組井戸などや、古墳時代中期の大溝が見つかった（野島1977、1986b）。この大溝からは朱塗りの壺や滑石製玉類、馬の下顎骨等が出土している（野島1986b、四條畷市教育委員会編2004）。またその後の二次調査では、隅丸方形の周溝状遺構を検出し、多量の漆が入った須恵器把手付碗や製塩土器等が出土している（野島1977、1978c、1986b）。

同年からは国道163号の拡幅工事に伴う調査が始まり、数次にわたって調査が行われた（野島1978a、西尾1987、1988、村上2000、2006）。1977～1978年の調査では、平安時代～室町時代の集落跡が確認され、室町時代の石組井戸から花崗岩の石臼が出土した（野島1978a）。この調査では硬玉製勾玉など古墳時代の遺物も出土している。1986年の調査でも中世の集落跡を確認したほか、古墳時代中期～後期の大溝から人物埴輪片や滑石製玉類、舟形木製品などが出土した（西尾1987）。1987～1988年の調査では古墳時代中期後半の井戸から板に乗せられた状態で馬頭骨が出土した（西尾1988）。井戸廃絶時に犠牲とされたものと考えられている（四條畷市教育委員会編2004）。1994年の調査では、古墳時代後期前半の落込から滑石製子持勾玉などが出土した（村上2000）。1996年の調査では奈良時代末～平安時代ごろの方形横板椀井戸を検出し、井戸内から「日置」と墨書された土師器坏が出土した（村上2006）。

この間他の開発に伴う調査も多く行われており、1977年の旧国鉄片町線（現JR学研都市線）複線化工事に伴う調査では古墳時代後期の掘立柱群を検出している（野島1977）。1983・1985年の民間開発に伴う調査でも古墳時代の遺物が出土している（野島・前田1984、野島1986a）。1985年のマンション建設に伴う調査では、古墳時代中～後期の井戸を検出し、井戸内からは石製玉類や多量の製塩土器などが出土した（野島1986b）。1986年の倉庫・事務所建設に伴う調査では、古墳時代中～後期の掘立柱建物や竪穴住居等を検出し、井戸から馬形木製品が出土した（松岡1987）。1989年度の公共下水道工事に伴う調査では、奈良時代の青銅製銚帯（丸軋）が出土した（野島1990）。1990年度と2012年度の旧法務局関連の調査では古墳時代中期の集落を検出した（村上・實盛2018）。1991～1992年の市役所東別館新築工事に伴う調査では、平安時代末～鎌倉時代初頭ごろの方形縦板椀井戸を検出し、その底部の井戸椀に使われていた曲物には「應保二年 如月廿日」の墨書があった（本書・村上2003b）。また溝からは青銅製銚帯（巡方）や長年大宝が出土した。1992年にはマンション建設工事に伴い中世及び古墳時代の集落跡を検出した（村上・實盛2018）。

1993年のガソリンスタンド建設に伴う調査では横穴式石室を検出している（村上2006・四條畷市史編さん委員会編2016）。石室は床面のみの残存であったが、玄室から羨道へ延びる石組排水溝を確認した。

2007年から2009年にかけて主要地方道枚方富田林泉佐野線の拡幅工事に伴って2次にわたって行った調査では古墳時代の区画溝を検出し（村上・實盛2013a）、隣接する古墳時代祭祀遺跡である奈良井遺跡とのつながりが明らかになってきた。

2011年度の調査では、平安後期～鎌倉前期の集落を検出し、「延任」の人名が書かれた木簡が出土した（村上・實盛2014）。

2013年度の調査では平安時代から中世にかけての集落跡・古墳時代の集落跡・弥生時代の方形周溝墓を検出した（村上・實盛2018）。特に弥生時代の遺構は中野遺跡では初の確認であった。

第2節 調査の経過

平成3年度第1次の発掘調査（NN1991-1）については、四條畷市中野本町670番1他において市庁舎建設事業が計画され、平成3年12月24日付畷行第454号で四條畷市長から四條畷市教育委員会を經由し大阪府教育委員会へ文化財保護法第57条の3（当時）の規定により「埋蔵文化財発掘の通知」が提出された。大阪府教育委員会からは平成4年2月3日付教委文第1-5785号で通知があり、発掘調査が必要との指導があった。

平成3年9月4日付で行政管理課長から市立歴史民俗資料館長へ「埋蔵文化財の試掘について（依頼）」があり、それに基づき平成3年9月14日および21日に、計画用地内に計4か所のトレンチを設定し確認調査を実施した結果、古墳時代と鎌倉時代の遺物包含層および集落跡と思われる遺構面を確認した。その結果をもって協議を行い、遺跡が工事によって破壊される庁舎建設予定地の発掘調査を実施することとなり、同年10月8日付行内第80号で総務部長から教育長へ「埋蔵文化財調査の施行について（依頼）」があった。調査面積は約748㎡で、調査期間は平成3（1991）年11月11日から平成4（1992）年1月22日までであった。調査は確認調査の結果から、盛土、耕土と床土をバックホーで掘削し、それ以下は遺構面の検出に努めながら人力での掘削を行った。出土遺物の総量は遺物収納用コンテナ換算で計20箱であった。

平成12年度第1次の発掘調査（NN2000-1）については、四條畷市中野本町670番1他において擁壁建設工事が計画され、平成12年5月2日付で四條畷市長から四條畷市教育委員会を經由し大阪府教育委員会へ文化財保護法第57条の3（当時）の規定により「埋蔵文化財発掘の通知」が提出された。大阪府教育委員会からは発掘調査が必要との指導があった。

平成12年5月9日に、事前に工事試掘に立会した結果、古墳時代と鎌倉時代の遺物包含層および集落跡と思われる遺構面を確認した。その結果をもって協議を行い、遺跡が工事によって破壊される擁壁建設予定地の発掘調査を実施することとなった。調査面積は約37㎡で、調査期間は平成12（2000）年5月9日から22日までであった。出土遺物の総量は遺物収納用コンテナ換算で計1箱であった。

（實盛）

第3章 中野遺跡（NN1991-1・2000-1）調査の成果

第1節 基本層序

発掘調査地区の調査前現況は、駐車場等および宅地であった。駐車場等および宅地造成のために0.2～0.7mほど盛土されていた。その下層はおよそ0.2mの耕土であり、その下層は0.1mほどの床土であった。宅地等の造成以前は水田地であったと思われる。

床土の下層に0.2～0.8mほど古墳時代～近世の遺物包含層が堆積し、その下面が古墳時代、平安時代、中世の集落面である第1遺構面であった。調査地区中央西半においては遺構が複雑に交錯しており、わずかに深度を違えながら数多くの遺構が存在している状況であった。このため、第1遺構面として調査後検出しきれなかったやや下面の遺構を便宜上第2遺構面として検出し、調査を行った。その下層は黄灰色系の砂質土や暗オリーブ褐色系の砂層が堆積しており、遺物を包含せず地山であった（第4図）。

（村上 始・實盛）

第2節 検出遺構

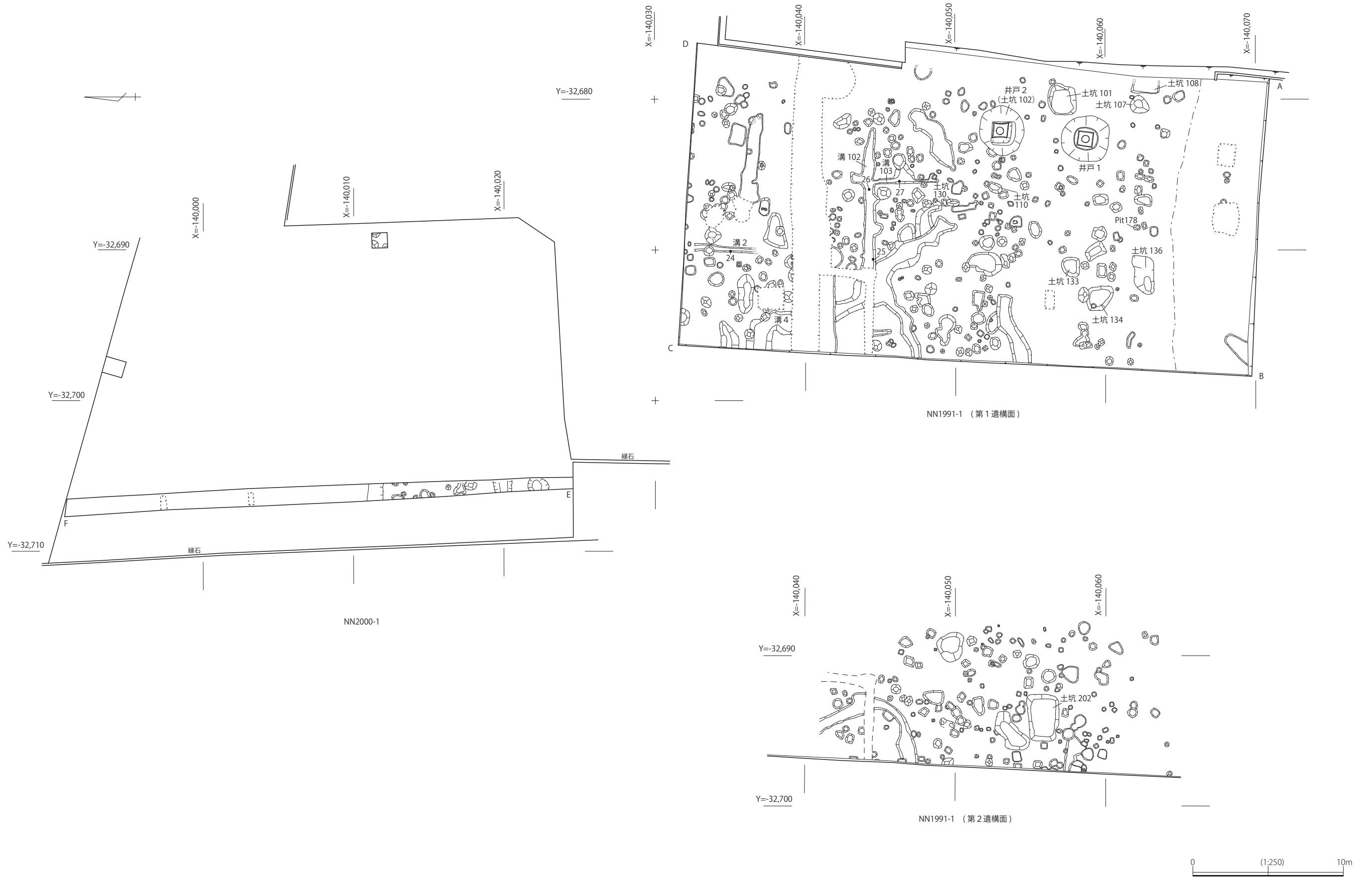
この調査で確認した遺構はおもに古墳時代、平安時代、中世に属するもので、Pit、土坑、溝、井戸があった（第3図）。1991-1次調査地区中央西半においては遺構が複雑に交錯しており、わずかに深度を違えながら数多くの遺構が存在している状況であった。このことから、第1遺構面として調査後検出しきれなかったやや下面の遺構を便宜上第2遺構面として検出し、調査を行った。そのため、遺構面としては便宜上2面調査を行ったが、全ての時代の遺構はただ一つの遺構面に帰属するとみなせる。これは、各時代において土地の削平等が行われたためであろう。また、2000-1次調査地区ではそのことを裏付けるように第1遺構面のみ検出した。調査地区の北半は中世の落込が存在しており、調査区幅の関係でその底まで確認するに至らなかった。南半では主に古墳時代の集落遺構を検出した。遺構面の標高は、1991-1次調査の第1遺構面北東端でT.P.+14.339m、北西端でT.P.+14.166m、南東端でT.P.+13.686m、南西端でT.P.+13.513m、便宜上検出した第2遺構面はT.P.+13.971m、2000-1次調査南半の遺構面北端でT.P.+14.096m、南端でT.P.+14.204mであった。遺構の番号は、その種類ごとの検出順に、調査年次ごとの通し番号でつけた。以下、遺物を掲載した主な遺構を中心に詳述する。

【第1遺構面】

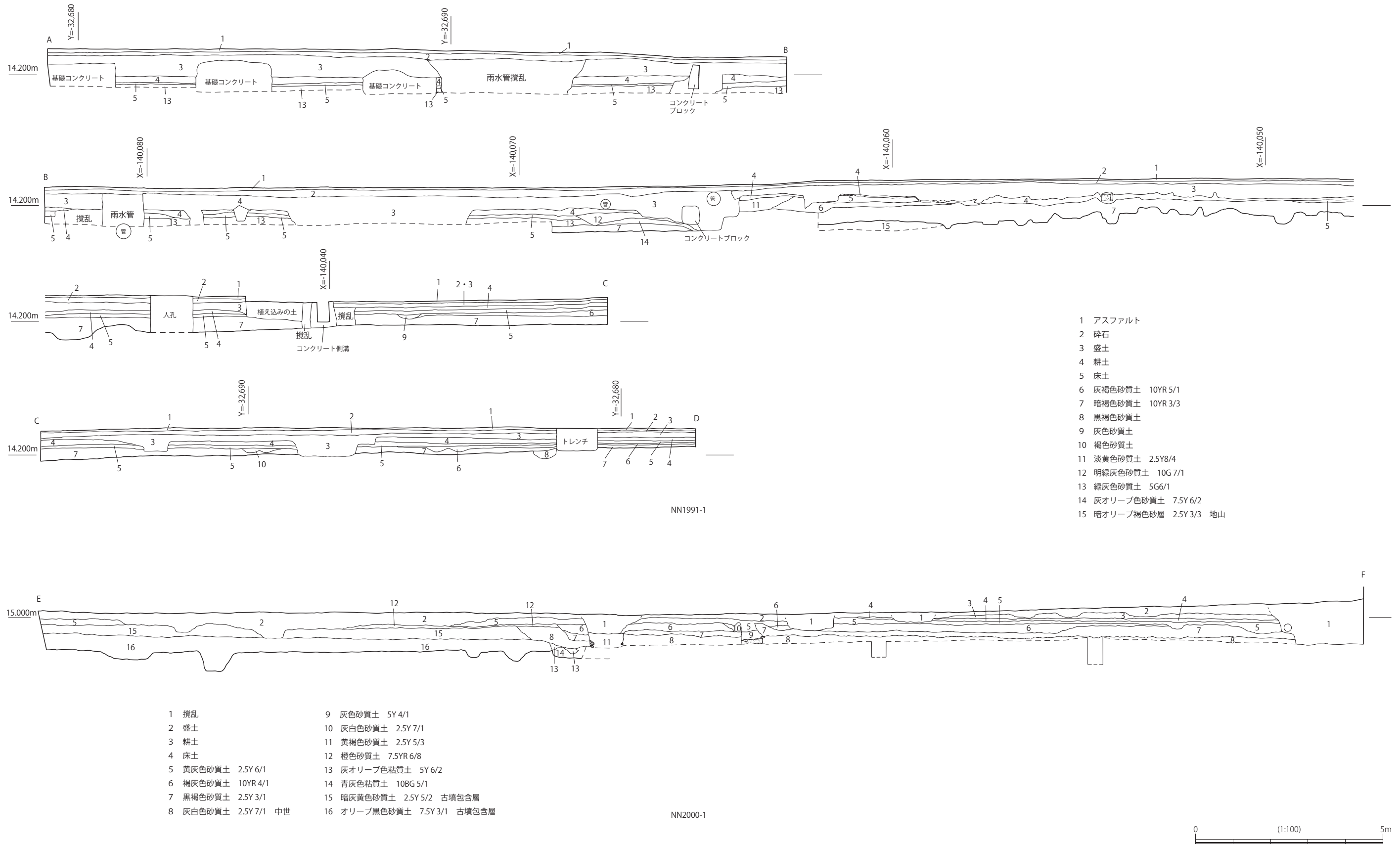
Pit178 1991-1次調査地区南寄り中央で検出した（第3図）。東西約0.3m、南北約0.5mで隅丸方形を呈する。深さは約0.2mである。上端の標高はT.P.+14.041m、下端はT.P.+13.839mであった。土師器皿（第13図-52）などが出土した。平安時代末～鎌倉時代初頭の遺構と考える。

土坑101 1991-1次調査地区南東寄りで検出した。検出できた南北約2.35m、東西約2.1m、深さ約0.4mで不整形の遺構である。上端の標高はT.P.+14.026m、底部はT.P.+13.599mであった（第3図）。瓦器碗（第13図-38）、瓦器皿（第13図-39）などが出土した。出土遺物から鎌倉時代の遺構と考える。

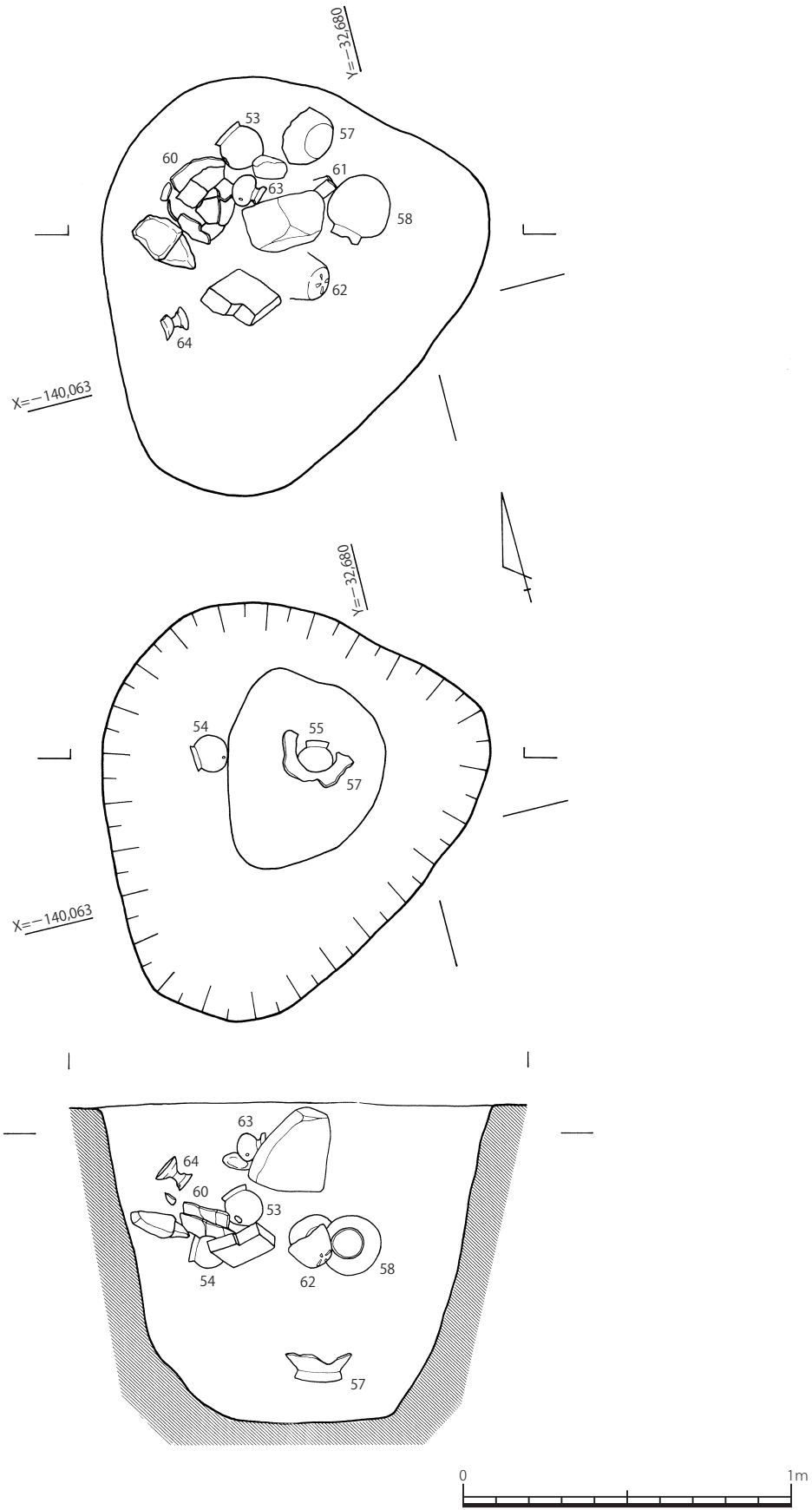
土坑107 1991-1次調査地区南寄り東端で検出した。東西約1.2m、南北約1.3m、深さ約0.9mで不整形を呈する。上層および下層においてそれぞれ遺物をまとめて検出した。上端の標高はT.P.+13.996m、底部はT.P.+13.110mであった（第3・5図）。遺構規模、形態から井戸として利用された可能性がある。その場合、出土した土器は井戸廃絶時に、埋め戻しの各段階において祭祀を行った結果遺存した可能性が考えられる。土師器甕（第14図-53～60）、土師器甕（第15図-61・62）、須恵器臚（第15図-63）、須恵器高坏（第15図-64）などが出土した。出土遺物から古墳時代中期の遺構と考える。



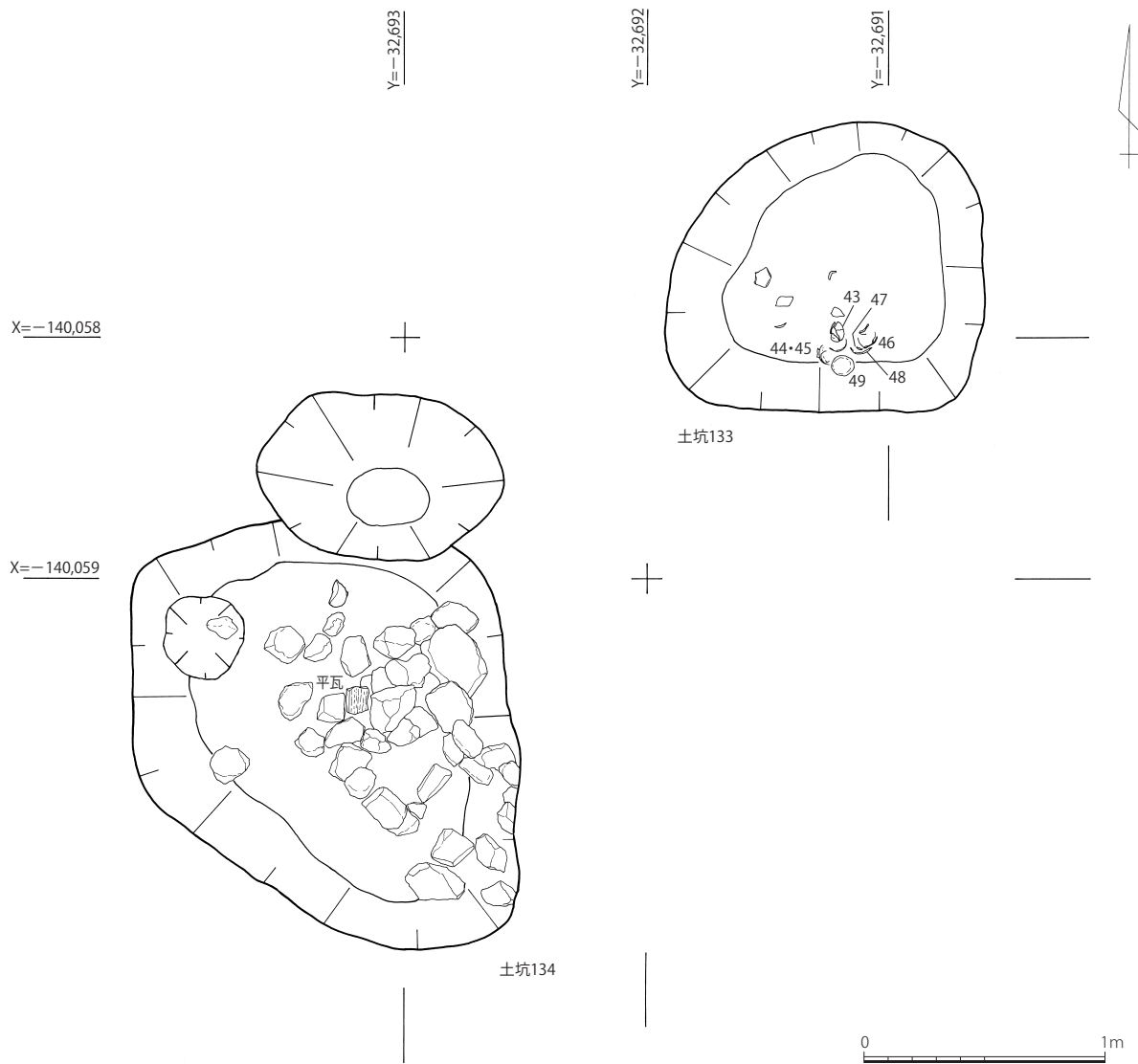
第3図 調査地区平面図 (NN1991-1・2000-1)



第4図 調査地区断面図 (NN1991-1・2000-1)



第5図 土坑107遺物出土状況図



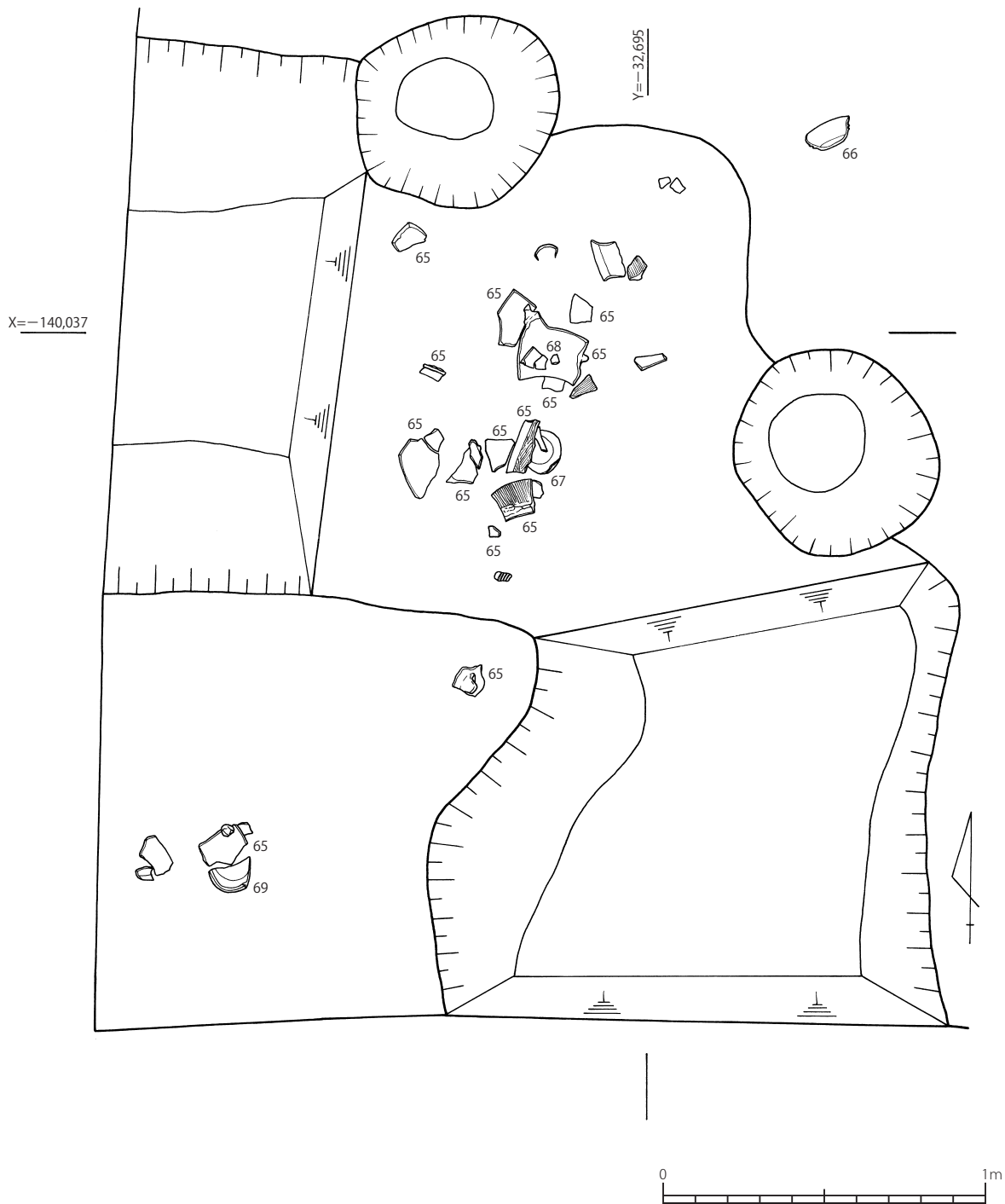
第6図 遺物出土状況図（土坑133・134）

土坑108 1991-1次調査地区南寄り東端で検出した。検出できた南北約1.7m、東西約0.7m、深さ約0.3mで隅丸方形を呈する。東側は調査地区外で、遺構西側のみを検出した。上端の標高はT.P.+14.006m、底部はT.P.+13.684mであった（第3図）。瓦器碗（第13図-40）などが出土した。出土遺物から鎌倉時代の遺構と考える。

土坑110 1991-1次調査地区中央で検出した。長径0.96m、短径0.62m、深さ約0.4mでいびつな楕円形を呈する。南端のごく一部を他の土坑により切られる。上端の標高はT.P.+14.076m、底部はT.P.+13.723mであった（第3図）。土師器皿（第13図-41）などが出土した。出土遺物から平安時代末～鎌倉時代初頭の遺構と考える。

土坑130 1991-1次調査地区中央で検出した。長径約0.8m、短径約0.5m、深さ約0.3mで楕円形を呈する。上端の標高はT.P.+14.185m、底部はT.P.+13.839mであった（第3図）。須恵器環（第13図-42）などが出土した。出土遺物から古代の遺構の可能性はある。

土坑133 1991-1次調査地区南西寄りで検出した。東西1.3m、南北1.2m、深さ約0.3mで不整形円形を呈する。上端の標高はT.P.+14.101m、底部はT.P.+13.844mであった（第3・6図）。土師器皿（第16図-45）などが上層でまとまって出土した。出土遺物から、平安時代末～鎌倉時代前半の遺構と考える。



第7図 溝4遺物出土状況図

土坑134 1991-1次調査地区南西寄りで検出した。東西1.6m、南北1.8m、深さ約0.4mで不整形円形を呈する。内部で20cm大の礫による石組みを検出した。北側を他の土坑により切られる。北西寄りの底部に小土坑が存在する（第3・6図）。上端の標高はT.P.+14.044m、底部はT.P.+13.685mであった。図化できていないが平瓦片などが出土した。

土坑136 1991-1次調査地区南西寄りで検出した。東西2.4m、南北1.5m、深さ約0.4mの不整形な遺構である。上端の標高はT.P.+13.993m、底部はT.P.+13.621mであった（第3図）。瓦器碗（第13図-51）などが出土した。出土遺物から鎌倉時代の遺構と考える。

溝2 1991-1次調査地区北端で検出した。北から南へと向いた直線的な溝で、両端とも削平のため失われていた。検出できた規模は長さ4.1m、幅0.5m、深さは約0.2mである。標高は北端部分の東

側上端がT.P.+14.324m、西側上端がT.P.+14.333m、底部がT.P.+14.174mで、南端部分の東側上端はT.P.+14.235m、西側上端はT.P.+14.159m、底部はT.P.+14.150mであった(第3図)。滑石製紡錘車(第12図-24)などが出土した。出土遺物から古墳時代の遺構と考える。

溝4 1991-1次調査地区北端で検出した。南東から北西へと向いたL字状に屈曲する溝で、西端は調査地区外に延びる。検出できた規模は長さ3.7m、幅1.7m、深さは約0.3mである。標高は北西端部分の北側上端がT.P.+14.120m、南側上端がT.P.+14.197m、底部がT.P.+13.875mで、南端部分の東側上端はT.P.+14.148m、西側上端はT.P.+14.152m、底部はT.P.+13.972mであった(第3・7図)。移動式竈(第16図-65)、須恵器高坏(第16図-66)、蓋坏(第16図-67~69)、製塩土器(写真図版16-1)などが出土した。出土遺物から古墳時代後期の遺構とみられる。

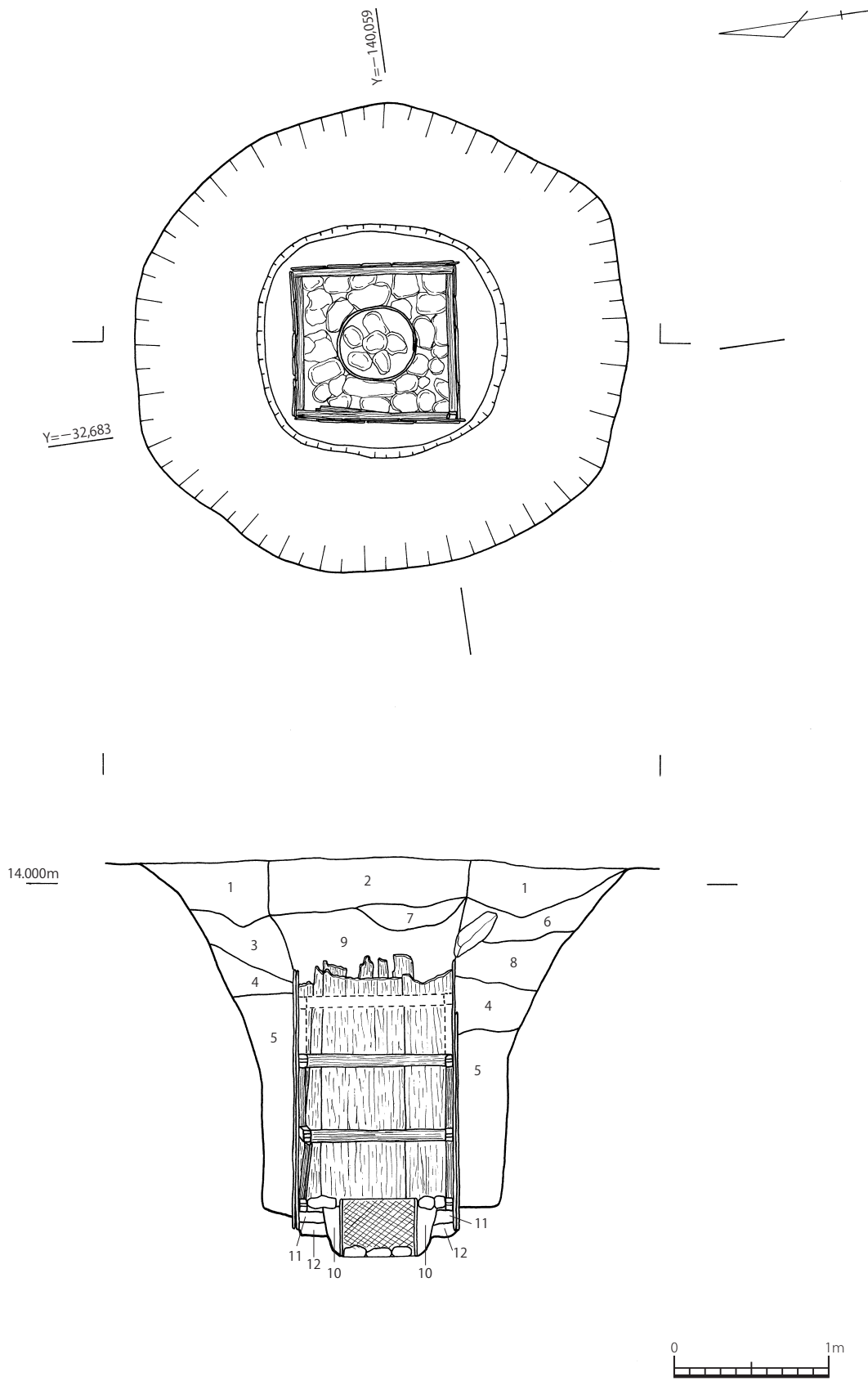
溝102 1991-1次調査地区中央やや北寄りで検出した。西から東へと向いた直線的な溝で、西端は攪乱により失われる。南側に二か所土坑状に膨らむ箇所が存在する。溝103とほぼ直角に交わり、切り合いがないことから同時に機能したとみられる。検出できた規模は長さ9.4m、幅0.8m、深さは約0.1mである。標高は東端部分の北側上端がT.P.+14.026m、南側上端がT.P.+14.038m、底部がT.P.+13.926mで、西端部分の北側上端はT.P.+14.226m、南側上端はT.P.+14.236m、底部はT.P.+14.103mであった(第3図)。皇朝十二銭の長年大寶(第12図-25)・北宋銭の明道元寶(第12図-26)などが出土した。出土遺物から平安時代から中世にかけての遺構と考える。

溝103 1991-1次調査地区中央やや北寄りで検出した。南から北へと向いた直線的な溝である。溝102とほぼ直角に交わり、切り合いがないことから同時に機能したとみられる。規模は長さ5.8m、幅0.7m、深さは約0.1mである。標高は北端部分の東側上端がT.P.+14.083m、西側上端がT.P.+14.111m、底部がT.P.+13.983mで、南端部分の東側上端はT.P.+14.085m、西側上端はT.P.+14.084m、底部はT.P.+14.013mであった(第3図)。青銅製帯金具(第12図-27)などが出土した。出土遺物や他の遺構との関係から平安時代から中世にかけての遺構と考える。

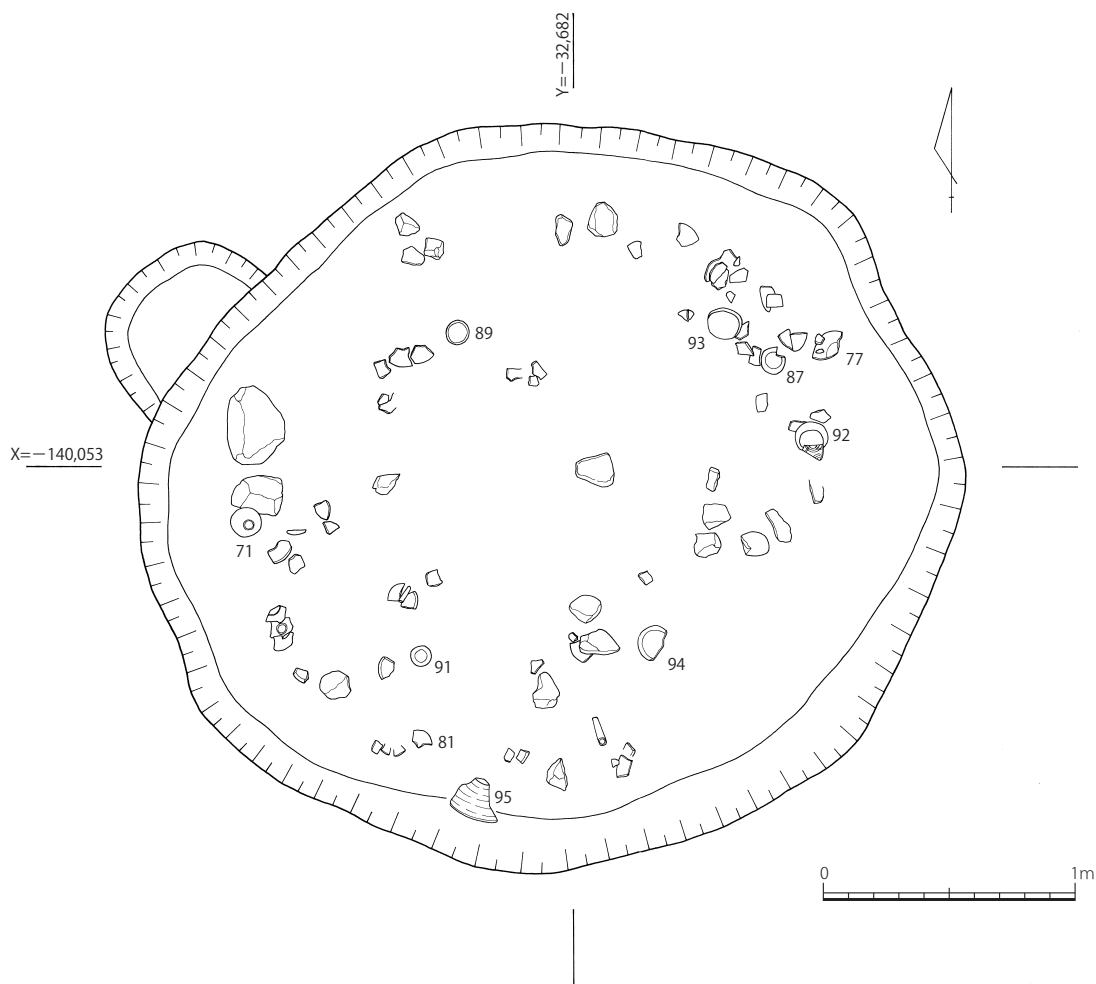
井戸1 1991-1次調査地区南東寄りで検出した。直径3.2m、深さ約2.5mで円形を呈する。井戸枠の形態は、長さ約1.6m(残存)・幅約15cm・厚さ約1.0cmの板材を外側に、そのさらに内側に長さ約1.6m(残存)・幅約40~20cm・厚さ約1.0cmの板材を、一辺約1.1mの正方形に立て並べ、それらの押さえとして角材を支柱や横棧木として組んだ方形縦板組型B2類(薄板横棧留型支柱有り)である(鐘方2003)。内側の縦板の底部には、四角形の孔があいていた。井戸底の中央に集水施設の曲物を1基設置し、浄水装置としてその周囲に20cm大の礫、曲物の内部に6個の平らな石を敷いていた。上端の標高はT.P.+14.130m、底部はT.P.+11.570m、方形板枠の検出高はT.P.+13.540mであった(第3・8図)。図化できていないが、井戸枠内からは土師器皿、甕、須恵器大甕、瓦器碗小片などが、裏込め土からは土師器皿、甕小片などが出土した。井戸枠内の瓦器碗には高台断面形態が三角形のものが含まれる。一方裏込め土には瓦器碗片は含まれず、口縁外面に2段にヨコナデを施すAタイプのものが含まれていた。出土遺物から平安時代後半に構築され、鎌倉時代前半に廃絶したと考える。

なお、井戸1断面図(第8図)の土層注記は次のとおりである。

- 第1層 褐灰色砂質土(7.5YR4/1)に黄橙色粘質土(10YR8/8)がブロック状に多く混入
- 第2層 褐色砂質土(10YR4/4)
- 第3層 暗灰色砂質土(N3/)に明青灰色粘質土(10BG7/1)がブロック状に多く混入
- 第4層 3層に類似しているが、明青灰色がベースの土
- 第5層 明青灰色粘質土(10BG7/1)
- 第6層 黒褐色砂質土(5YR3/1)に黄橙色粘質土(10YR8/8)が少量混入
- 第7層 黒褐色砂質土(5YR3/1)
- 第8層 6層に類似しているが、黄橙色粘質土(10YR8/8)が多くブロック状に混入
- 第9層 灰色砂質土(7.5Y4/1)
- 第10層 明青灰色砂層
- 第11層 明青灰色シルト
- 第12層 黒色粘土



第8图 井戸1 平面图·断面图

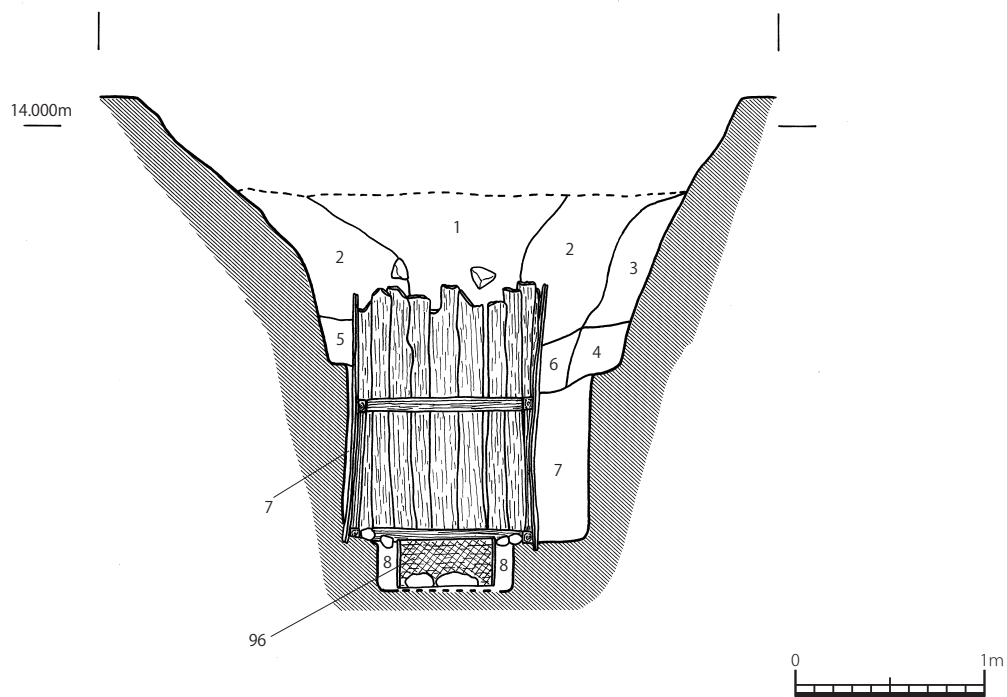
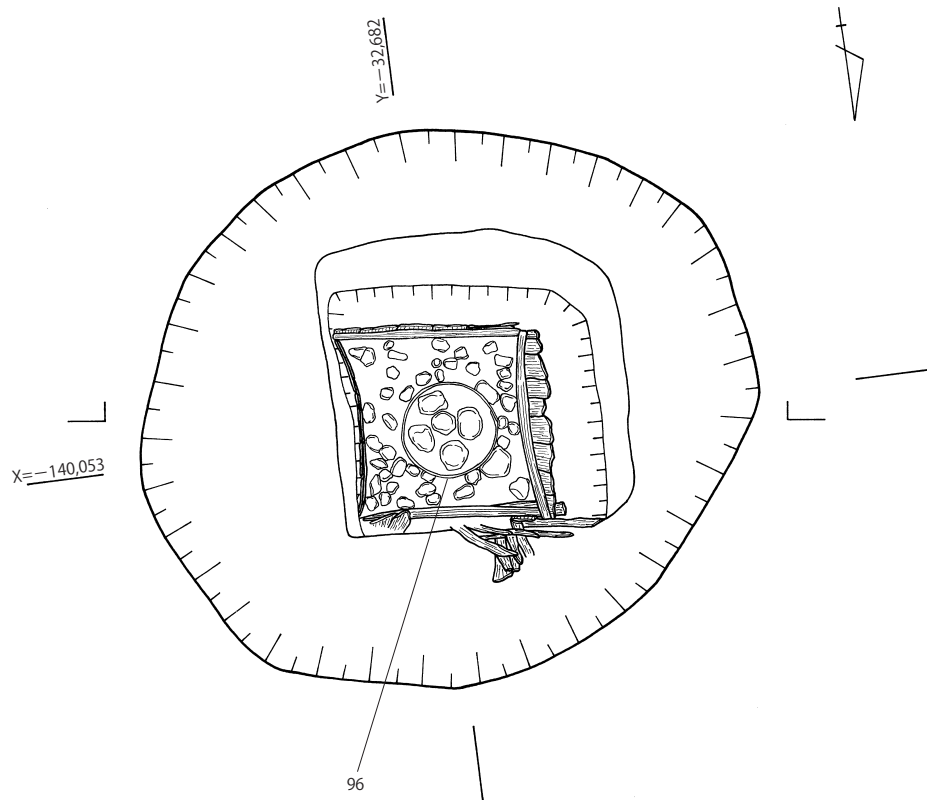


第9図 井戸2上層（土坑102）遺物出土状況図

井戸2（土坑102） 1991-1次調査地区中央東寄りで検出した。直径約3.3m・深さ約2.6mの円形である。上層において井戸廃絶時の祭祀に用いられたとみられる数多くの土器を検出し（第9図）、土坑102として遺物を取り上げた。その後調査を継続し井戸であることを確認したため、あらためて井戸2として遺構番号を付した。井戸枠の形態は、長さ約1.3m（残存）・幅約15cm・厚さ約0.5cmの板材数十枚を一辺約1mの正方形に立て並べ、それらの押さえとして角材を支柱や横棧木として組んだ方形縦板組型B2類（薄板横棧留型支柱有り）である（鐘方2003）。井戸底の中央に集水施設の曲物を1基設置し、浄水装置としてその周囲に10cm大の小礫、曲物の内部に5個の平らな石を敷いていた。上端の標高はT.P.+14.150m、底部はT.P.+11.550m、方形板枠の検出高はT.P.+13.153mであった（第3・9・10図）。廃絶時の祭祀に用いられたとみられる瓦器碗（第17図-70~77）、瓦器皿（第18図-78~80）、黒色土器碗（第18図-81~82）、土師器皿（第18図-83~94）、須恵器練鉢（第18図-95）、砥石（第12図-28）、青白磁合子蓋（第12図-29）などが出土した。また、井戸枠の底に設置された曲物（第18図-96）には「應保二年（1162年）」の墨書があった。これは井戸枠設置時の墨書と考える。これらの出土遺物から、井戸は平安時代末に構築され、鎌倉時代前半に廃絶したと考える。

なお、井戸2断面図（第10図）の土層注記は次のとおりである。

- 第1層 オリーブ黒色粘質土（10Y3/1） 土器多量混入
- 第2層 灰色粗砂層（7.5Y6/1）
- 第3層 オリーブ褐色砂質土（2.5Y4/3）



第10图 井戸2平面図・断面図

- 第4層 緑灰色粗砂層 (10G6/1)
- 第5層 淡黄色細砂層 (5Y8/4)
- 第6層 暗青灰色粘質土 (5B4/1)
- 第7層 灰色粗砂層
- 第8層 明青灰色砂層

【第2遺構面】

土坑202 1991-1次調査地区中央西端で検出した。東西3.1m、南北2.1m、深さ約0.5mで隅丸方形を呈する(第3図)。上端の標高はT.P.+13.926m、底部はT.P.+13.435mであった。土師器皿(第19図-97~105)、瓦器碗(第19図-106)などが出土した。出土遺物から平安時代末の遺構と考える。
(村上・實盛)

第3節 出土遺物

1. 遺物包含層内出土遺物

土師器

1 皿 口径：8.0cm。器高：1.1cm。厚さ：0.2～0.5cm。色調：内面は灰白色（10YR 8/1）、外面は灰白色（10YR 8/2）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。（第11図－1、写真図版8－1－1）

2 皿 口径：8.4cm。器高：1.2cm。厚さ：0.2～0.4cm。色調：内・外面は浅黄橙色（2.5YR 8/3）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：ほぼ完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。（第11図－2、写真図版8－1－2）

3 皿 口径：8.4cm。器高：1.1cm。厚さ：0.2～0.4cm。色調：内・外面は浅黄橙色（7.5YR 8/3）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。（第11図－3、写真図版8－1－3）

4 皿 口径：8.8cm。器高：1.4cm。厚さ：0.2～0.4cm。色調：内・外面は橙色（5YR 7/6）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：ほぼ完形。口縁部外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jbタイプの12世紀末～13世紀前半のものと思われる。（第11図－4、写真図版8－1－4）

5 皿 口径：9.8cm。器高：1.5cm。厚さ：0.2～0.5cm。色調：内・外面は浅黄橙色（7.5YR 8/4）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：やや不良。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。体部外面に切り込み円板成形技法による粘土接合痕がみられる。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。（第11図－5、写真図版8－1－5）

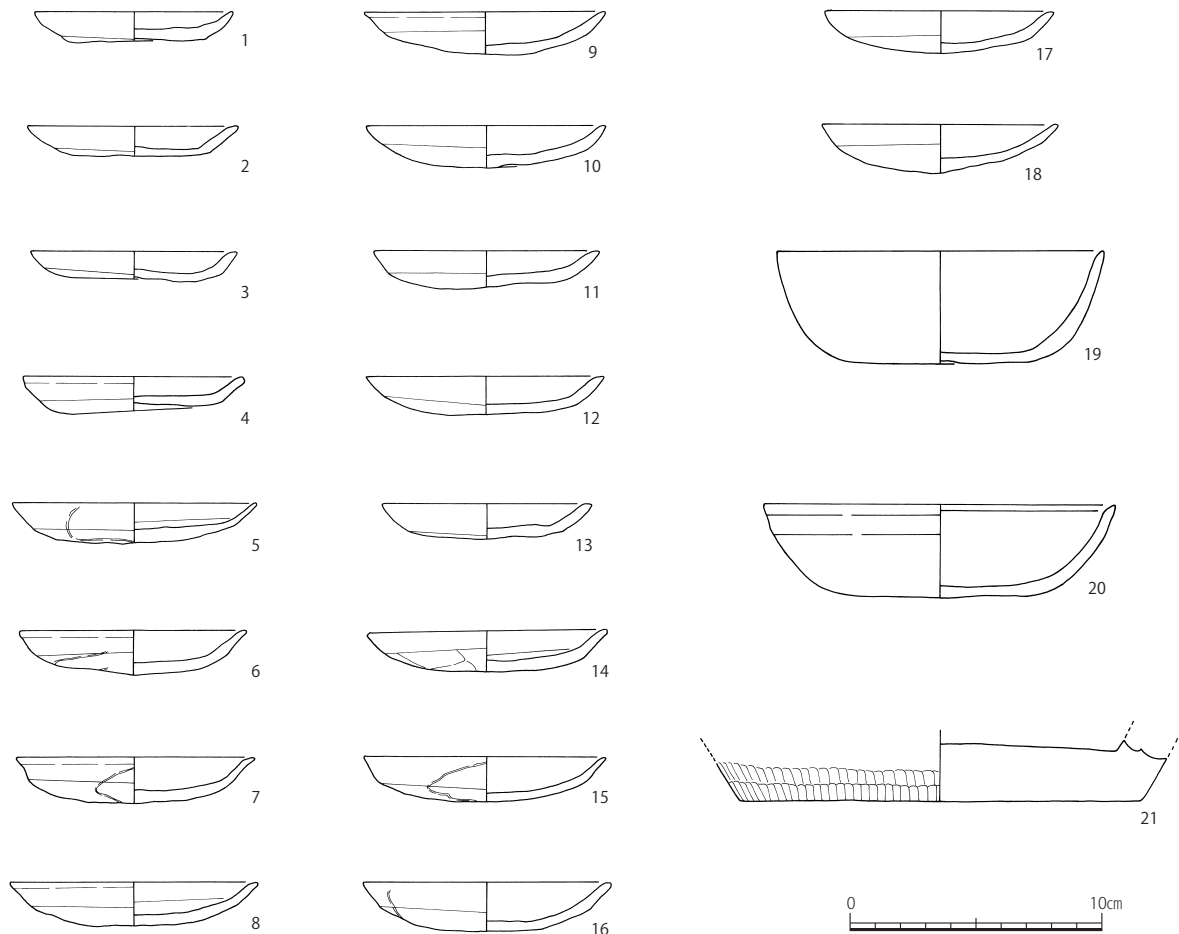
6 皿 口径：9.0cm。器高：1.7cm。厚さ：0.2～0.5cm。色調：内・外面は浅黄橙色（7.5YR 8/4）。胎土：密。直径2mm以下の砂粒を少量含む。焼成：やや不良。残存度：ほぼ完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。体部外面に切り込み円板成形技法による粘土接合痕がみられる。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。（第11図－6、写真図版8－1－6）

7 皿 口径：9.5cm。器高：1.8cm。厚さ：0.2～0.7cm。色調：内・外面は浅黄橙色（7.5YR 8/4）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：やや不良。残存度：ほぼ完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。体部外面に切り込み円板成形技法による粘土接合痕がみられる。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。（第11図－7、写真図版8－1－7）

8 皿 口径：9.8cm。器高：1.7cm。厚さ：0.2～0.4cm。色調：内・外面は浅黄橙色（7.5YR 8/4）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：やや不良。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。体部外面に切り込み円板成形技法による粘土接合痕がみられる。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。（第11図－8、写真図版8－1－8）

9 皿 口径：9.6cm。器高：1.7cm。厚さ：0.2～0.5cm。色調：内・外面は浅黄橙色（7.5YR 8/4）。胎土：密。直径2mm以下の砂粒を少量含む。焼成：やや不良。残存度：ほぼ完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。（第11図－9、写真図版8－1－9）

10 皿 口径：9.6cm。器高：1.7cm。厚さ：0.2～0.5cm。色調：内・外面は浅黄橙色（7.5YR 8/3）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。体部外面に切り込み円板成形技



第11図 出土遺物（包含層）

法による粘土接合痕がみられる。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。（第11図-10、写真図版8-1-10）

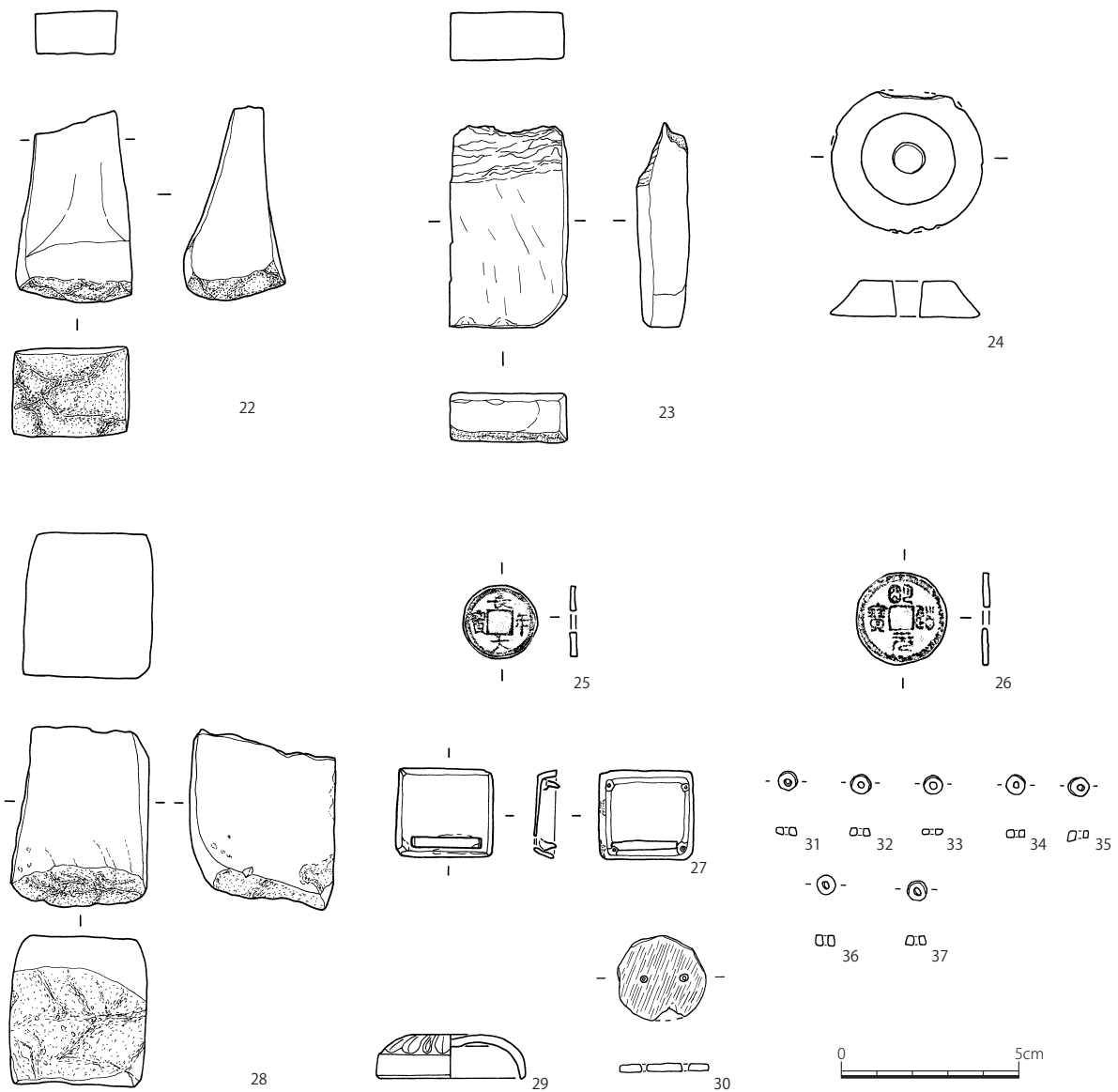
11皿 口径：9.0cm。器高：1.4cm。厚さ：0.2～0.5cm。色調：内面は浅黄橙色（7.5YR 8/4）、外面は淡橙色（5YR 8/4）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：ほぼ完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。（第11図-11、写真図版8-1-11）

12皿 口径：9.4cm。器高：1.5cm。厚さ：0.2～0.4cm。色調：内・外面は淡橙色（5YR 8/4）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。（第11図-12、写真図版8-1-12）

13皿 口径：8.3cm。器高：1.4cm。厚さ：0.2～0.4cm。色調：内・外面は淡橙色（5YR 8/3）、内外面底部付近は赤橙色（10R 6/6）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：7/8。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。第11図-13、写真図版8-1-13）

14皿 口径：9.6cm。器高：1.6cm。厚さ：0.2～0.4cm。色調：内面は明褐色（7.5YR 7/1）、外面は淡橙色（5YR 8/4）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はナデ調整、体部内面はナデ調整を施している。体部内面にススが付着している。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。（第11図-14、写真図版8-1-14）

15皿 口径：9.6cm。器高：1.8cm。厚さ：0.2～0.4cm。色調：内・外面は浅黄橙色（7.5YR 8/3）。



第12図 出土遺物(石製品・金属製品等)

胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：ほぼ完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。体部外面に切り込み円板成形技法による粘土接合痕がみられる。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。(第11図-15、写真図版8-1-15)

16皿 口径：9.9cm。器高：1.9cm。厚さ：0.2~0.5cm。色調：内・外面は浅黄橙色(7.5YR 8/4)。胎土：密。直径2mm以下の砂粒を少量含む。焼成：やや不良。残存度：3/4。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。体部外面に切り込み円板成形技法による粘土接合痕がみられる。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。(第11図-16、写真図版8-1-16)

17皿 口径：9.1cm。器高：1.6cm。厚さ：0.2~0.4cm。色調：内・外面は浅黄橙色(7.5YR 8/3)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：7/8。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。(第11図-17、写真図版8-1-17)

18皿 口径：9.4cm。器高：2.0cm。厚さ：0.2~0.6cm。色調：内・外面は浅黄橙色(7.5YR 8/4)。

胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：やや不良。残存度：3/4。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はコビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。(第11図-18、写真図版8-1-18)

19碗 口径：13.0cm(復元)。器高：4.5cm(復元)。厚さ：0.2~0.6cm。色調：内・外・断面は浅黄橙色(7.5YR 8/6)。胎土：粗。直径2mm以下の砂粒を多く含む。焼成：良好。残存度：1/2。体部内外面はナデ調整、底部外面はコビオサエ調整を施している。7世紀末~8世紀前半のものと思われる。(第11図-19、写真図版8-1-19)

20坏 口径：14.0cm(復元)。器高：3.7cm(復元)。厚さ：0.2~0.5cm。色調：内・外・断面は橙色(5YR 6/8)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：1/3。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部内外面はナデ調整を施している。7世紀末~8世紀前半のものと思われる。(第11図-20、写真図版8-1-20)

石製品

21鍋 底径：16.0cm(復元)。器高：2.8cm(残存)。厚さ：1.8~2.3cm。色調：内・外・断面は灰白色(5Y 7/1)。残存度：底部のみ1/3。底部外面全面にススが付着している。滑石製品である。(第11図-21、写真図版8-2-21)

22砥石 長さ：5.4cm(残存)。最大幅：3.3cm。最大厚さ：2.5cm。残存度：小片。砥面は4面残存する。(第12図-22、写真図版8-3-22)

23砥石 長さ：5.6cm(残存)。最大幅：3.3cm。最大厚さ：1.4cm。残存度：小片。砥面は4面残存する。(第12図-23、写真図版9-1-23)

24紡錘車 下底径：4.2cm。上底径：2.7cm。孔径：0.6~0.8cm。高さ：1.0cm。残存度：ほぼ完形。滑石製品である。(第12図-24、写真図版9-2-24)

2. 第1遺構面遺構出土遺物

土坑101

瓦器

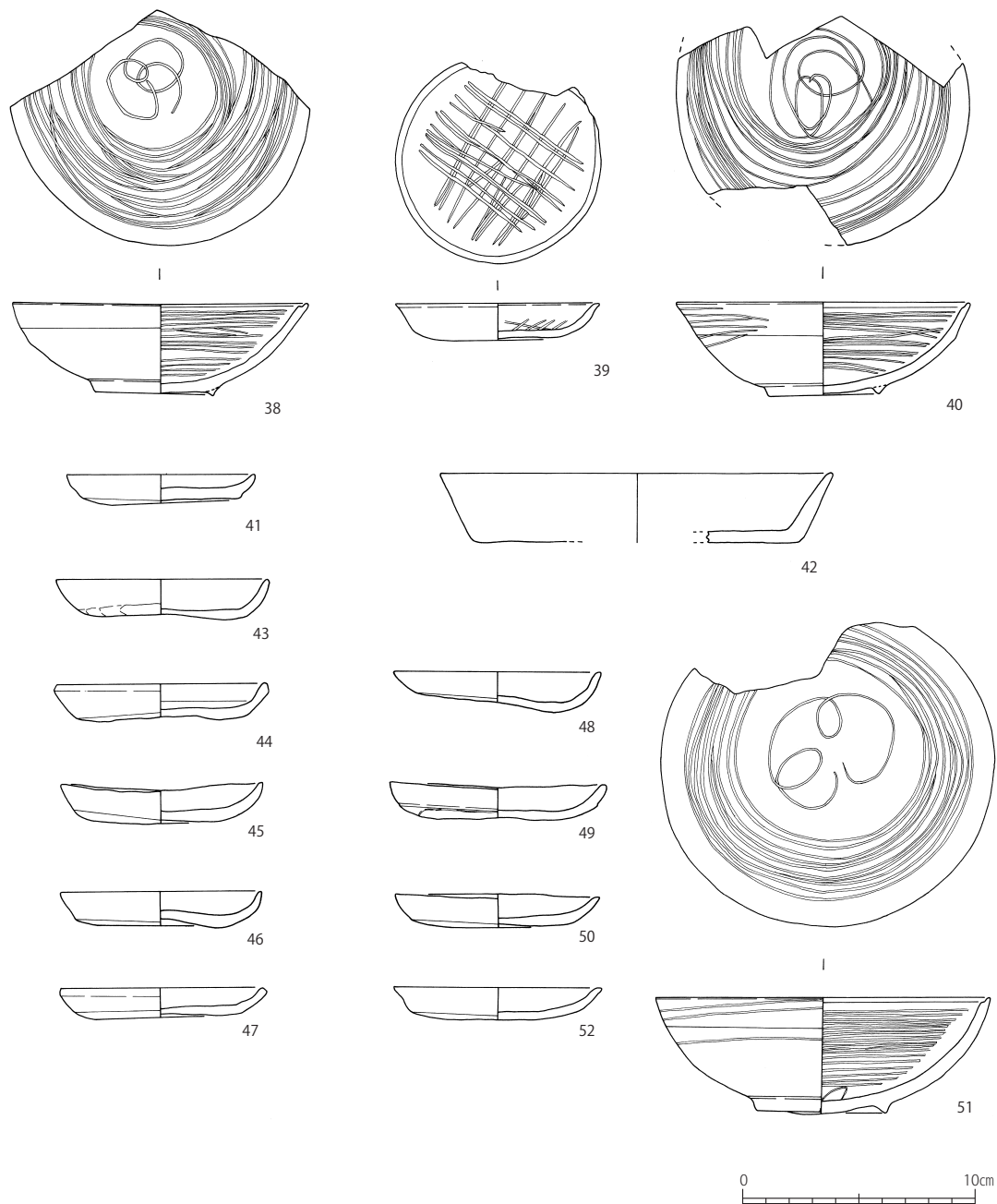
38碗 口径：12.7cm。器高：3.8cm。厚さ：0.2~0.5cm。色調：内・外面は灰色(N 5/)、断面は灰白色(N 6/)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：3/4。口縁部内外面はヨコナデ調整を施している。体部外面にはコビオサエ痕がみられ粗いヘラミガキ調整、体部内面はやや粗いヘラミガキ調整を施している。口縁部内端には段が確認できる。見込部には連結輪状の暗文を施している。高台の断面形は低い三角形を呈する。大和型Ⅲ-B段階。13世紀前半のものと思われる。(第13図-38、写真図版11-1-38)

39皿 口径：8.8cm。器高：1.6cm。厚さ：0.2~0.3cm。色調：内面は灰色(N 5/)、外面は灰白色(7.5Y 8/1)、断面は灰白色(N 8/)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：9/10。口縁部内外面はヨコナデ調整を施している。体部内外面はナデ調整を施している。底部内面には格子状の暗文を施している。(第13図-39、写真図版11-1-39)

土坑108

瓦器

40碗 口径：12.6cm。器高：4.0cm。厚さ：0.2~0.4cm。色調：内・外面は灰色(N 5/)、断面は灰白色(N 8/)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：2/3。口縁部内外面はヨコナデ調整を施している。体部外面にはコビオサエ痕がみられ粗いヘラミガキ調整、体部内面はやや粗いヘラミガキ調整を施している。口縁部内端には段が確認できる。見込部には連結輪状の暗文を施している。高台の断面形は低い三角形を呈する。大和型Ⅲ-B段階。13世紀前半のものと思われる。(第13図-40、写真図版11-2-40)



第13図 出土遺物 (土坑101・108・110・130・133・136・Pit178)

土坑110

土師器

41皿 口径：8.0cm。器高：1.1cm。厚さ：0.2～0.5cm。色調：内・外面は浅黄橙色 (7.5YR 8/3)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：7/8。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。(第13図-41、写真図版11-2-41)

土坑130

須恵器

42皿 口径：17.0cm (復元)。底径：14.0cm (復元)。器高：3.0cm (残存)。厚さ：0.3～0.7cm。色調：内・外・断面は灰白色 (2.5Y 8/1)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。

残存度：小片。体部内外面は回転ナデ調整を施している。7世紀末～8世紀前半の皿Aと思われる。(第13図-42、写真図版11-2-42)

土坑133

土師器

43皿 口径：9.1cm。器高：1.5cm。厚さ：0.2～0.4cm。色調：内・外面は浅黄橙色（7.5YR 8/4）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：やや不良。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jbタイプの13世紀前半のものと思われる。(第13図-43、第6図-43、写真図版12-1-43)

44皿 口径：9.1cm。器高：1.4cm。厚さ：0.3～0.5cm。色調：内・外面は淡橙色（5YR 8/4）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：やや不良。残存度：7/9。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jbタイプの13世紀前半のものと思われる。(第13図-44、第6図-44、写真図版12-1-44)

45皿 口径：8.7cm。器高：1.4cm。厚さ：0.3～0.6cm。色調：内面は浅黄橙色（7.5YR 8/4）、外面は灰白色（7.5YR 8/2）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jbタイプの13世紀前半のものと思われる。(第13図-45、第6図-45、写真図版12-1-45)

46皿 口径：8.7cm。器高：1.5cm。厚さ：0.2～0.5cm。色調：内・外面は浅黄橙色（7.5YR 8/4）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：7/8。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jbタイプの13世紀前半のものと思われる。(第13図-46、第6図-46、写真図版12-1-46)

47皿 口径：8.7cm。器高：1.3cm。厚さ：0.2～0.4cm。色調：内・外面は淡橙色（5YR 8/4）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内面はハケ調整、口縁部外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jbタイプの13世紀前半のものと思われる。(第13図-47、第6図-47、写真図版12-1-47)

48皿 口径：8.9cm。器高：1.3cm。厚さ：0.3～0.5cm。色調：内・外面は浅黄橙色（7.5YR 8/4）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：やや不良。残存度：ほぼ完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jbタイプの13世紀前半のものと思われる。(第13図-48、第6図-48、写真図版12-1-48)

49皿 口径：9.3cm。器高：1.3cm。厚さ：0.3～0.5cm。色調：内・外面は浅黄橙色（7.5YR 8/4）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：やや不良。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。体部外面に切り込み円板成形技法による粘土接合痕がみられる。Jbタイプの13世紀前半のものと思われる。(第13図-49、第6図-49、写真図版12-1-49)

50皿 口径：8.9cm。器高：1.5cm。厚さ：0.3～0.5cm。色調：内・外面は浅黄橙色（10YR 8/4）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：やや不良。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。(第13図-50、写真図版12-1-50)

土坑136

瓦器

51碗 口径：14.4cm。器高：5.0cm。厚さ：0.2～0.6cm。色調：内・外面はにぶい橙色（7.5YR 7/3）、断面は浅黄橙色（10YR 8/4）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：やや不良。残存度：7/8。口縁部内外面はヨコナデ調整を施している。口縁部内外面はヨコナデ調整を施している。体部外面は粗いヘラミガキ調整、体部内面はやや粗いヘラミガキ調整を施している。口縁部内端には段が確認できる。見込部には連結輪状の暗文を施している。高台の断面形は三角形を呈する。大和型Ⅲ-B段階。13世紀前半のものと思われる。(第13図-51、写真図版11-2-51)

Pit178

土師器

52皿 口径：9.0cm。器高：1.4cm。厚さ：0.2～0.4cm。色調：内・外面は灰白色（10YR 8/2）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：やや不良。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はコビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。（第13図-52、写真図版11-2-52）

土坑107

土師器

53甕 口径：13.9cm。器高：15.2cm。厚さ：0.3～0.7cm。色調：内面は浅黄橙色（7.5YR 8/4）、外面は橙色（2.5YR 7/8）。体部外面の一部と底部が黒変。胎土：粗。直径3mm以下の砂粒・小石を多く含む。焼成：良好。残存度：ほぼ完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面は被熱により器壁の剥離が著しいためタテハケ調整を一部で確認できるのみである。体部内面はヘラケズリ調整を施している。5世紀中頃のものと思われる。（第14図-53、第5図-53、写真図版12-2-53）

54甕 口径：11.8cm。器高：13.2cm。厚さ：0.3～0.7cm。色調：内・外面は灰白色（5Y 8/2）。体部外面の一部が黒変。胎土：やや粗。直径2mm以下の砂粒・小石をやや多く含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はタテハケ調整、体部内面はタテ方向のナデ調整、底部付近は円を描くような方向のナデ調整を施している。5世紀中頃～後半のものと思われる。（第14図-54、第5図-54、写真図版12-2-54）

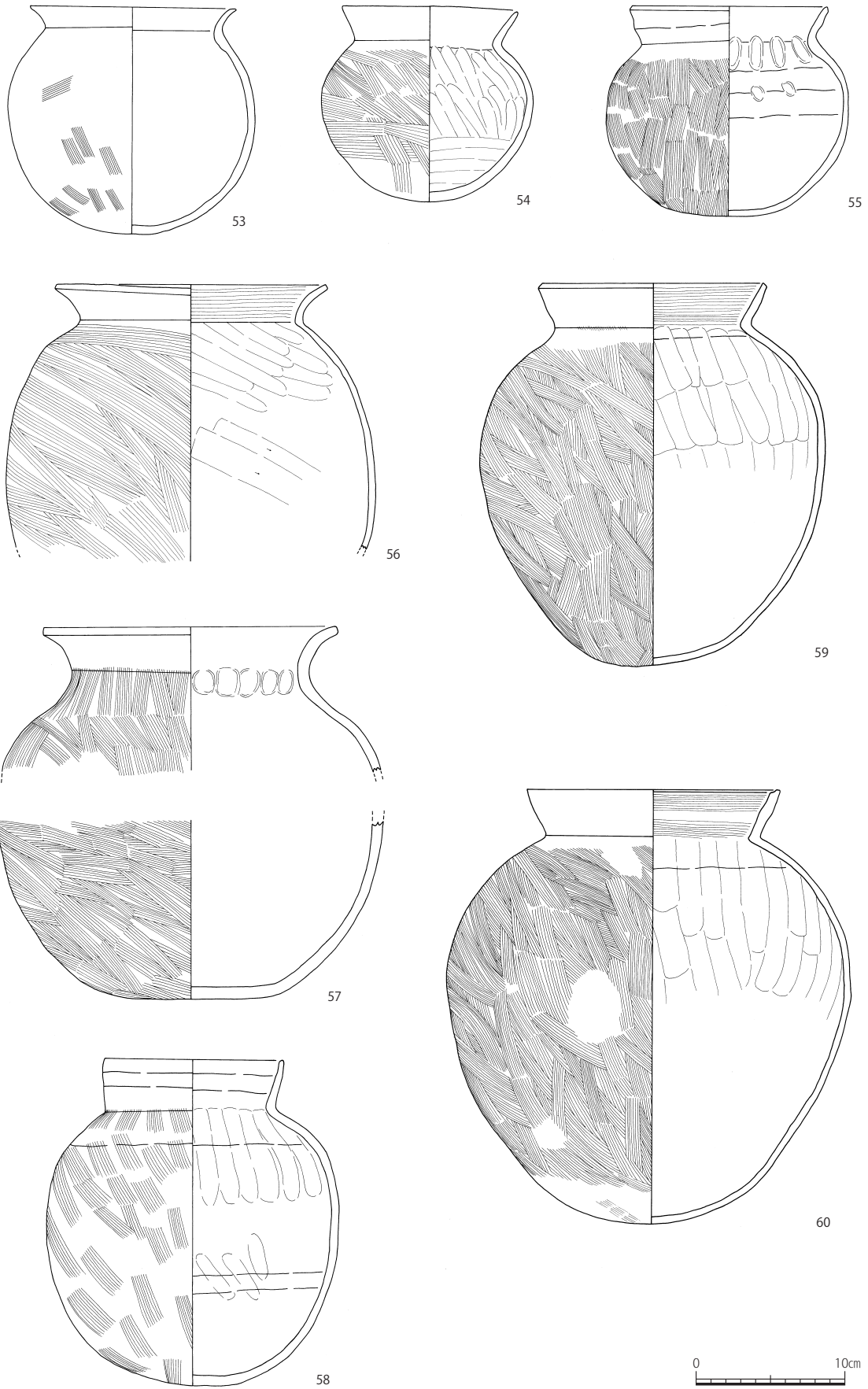
55甕 口径：13.2cm。器高：14.1cm。厚さ：0.4～0.7cm。色調：内・外面は褐色（7.5YR 4/6）。体部外面の一部が黒変。胎土：粗。直径4mm以下の砂粒・小石を多く含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はタテハケ調整、体部内面の上部には幅約1.5cmの粘土紐痕と指頭痕がみられナデ調整を施している。5世紀中頃～後半のものと思われる。（第14図-55、第5図-55、写真図版12-2-55）

56甕 口径：18.0cm（復元）。器高：17.7cm（残存）。厚さ：0.4～0.5cm。色調：内・外・断面は淡黄色（2.5Y 8/3）。胎土：粗。直径5mm以下の砂粒・小石を多く含む。焼成：良好。残存度：1/3。口縁部外面はヨコナデ調整、体部外面はタテハケ調整、口縁部内面はヨコハケ調整、体部内面の上半部はナデ調整・下半部はヘラケズリ調整を施している。体部外面の下半部にススの付着がみられる。5世紀中頃～後半のものと思われる。（第14図-56、写真図版13-1-56）

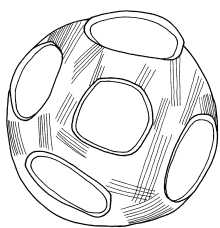
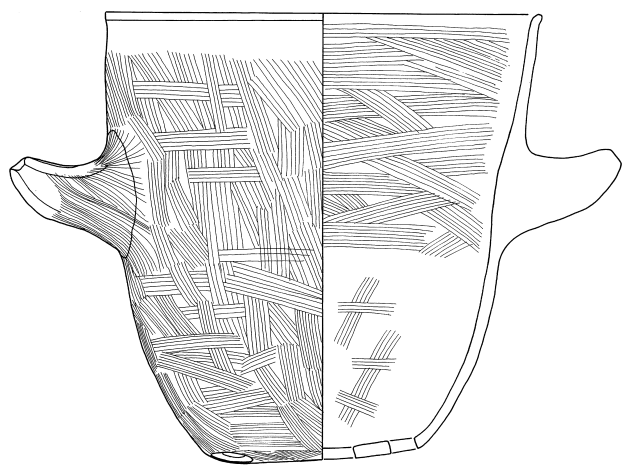
57甕 口径：19.7cm。器高：26.0cm（復元）。厚さ：0.6～0.8cm。色調：内・外・断面は淡黄色（2.5Y 8/3）。胎土：粗。直径5mm以下の砂粒・小石を多く含む。焼成：良好。残存度：4/5。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面の上半部はタテハケ調整・下半部はヨコハケ調整、体部内面はナデ調整を施している。口縁部下部から体部上面にかけてススの付着がみられる。体部上半部と下半部に接合点は確認できないが、胎土や色調・調整などから同一個体と考える。5世紀中頃～後半のものと思われる。（第14図-57、第5図-57、写真図版12-2-57）

58甕 口径：12.0cm。器高：22.0cm。厚さ：0.3～0.7cm。色調：内面は灰白色（5Y 8/2）、外面は浅黄橙色（7.5YR 8/3）、部分的に橙色（5YR 7/8）。胎土：やや粗。直径2mm以下の砂粒・小石をやや多く含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はタテハケ調整、体部内面はナデ調整を施している。口縁部内外面と肩部付近の内外面に粘土紐痕がみられ、体部内面には幅約1～1.5cmの粘土紐痕がみられる。体部外面の下半部にススの付着がみられる。5世紀中頃～後半のものと思われる。（第14図-58、第5図-58、写真図版12-2-58）

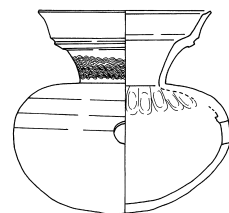
59甕 口径：14.8cm。器高：25.8cm。厚さ：0.3～0.7cm。色調：内面は浅黄橙色（7.5YR 8/4）、外面は浅黄橙色（10YR 8/3）。体部外面の肩部から底部にかけての一部が黒変。胎土：やや粗。直径5mm以下の砂粒・小石をやや多く含む。焼成：良好。残存度：4/5。口縁部外面は端部付近から口縁接合部にかけてタテハケ調整後にヨコナデ調整、体部外面はタテハケ調整、口縁部内面はヨコハケ調整、体部内面はナデ調整を施している。体部内面の肩部付近に粘土紐痕がみられる。5世紀中頃～後半のものと思われる。（第14図-59、写真図版12-2-59）



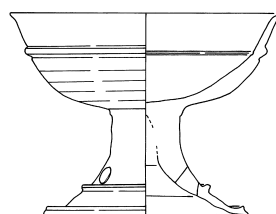
第14図 出土遺物（土坑107）



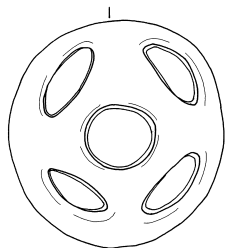
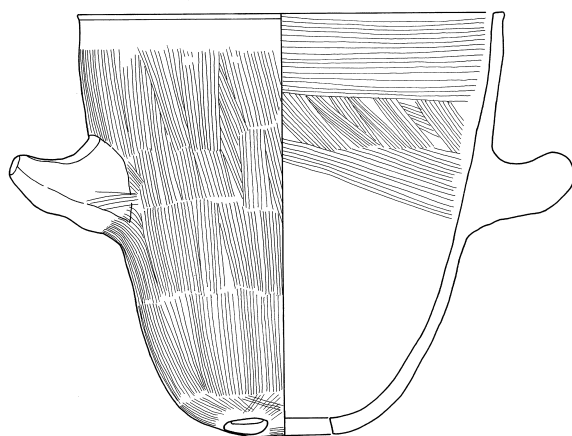
61



63



64



62



第15図 出土遺物（土坑107）

60甕 口径：17.0cm。器高：29.2cm。厚さ：0.4～0.8cm。色調：内面はにぶい橙色（7.5YR 7/4）、外面は淡黄色（2.5Y 8/3）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：ほぼ完形。口縁部外面はヨコナデ調整、体部外面はタテハケ調整、口縁部内面はヨコハケ調整、体部内面はナデ調整を施している。体部内面の肩部付近に粘土紐痕がみられる。5世紀中頃～後半のものと思われる。（第14図-60、第5図-60、写真図版12-2-60）

61甕 口径：23.1cm。器高：23.8cm。厚さ：0.4～5cm。色調：内・外面は淡黄色（2.5Y 8/3）。体部内外面ともに口縁部から底部にかけての一部が黒変。胎土：やや粗。直径3mm以下の砂粒をやや多く含む。焼成：良好。残存度：4/5。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面は底部までタテハケ・ヨコハケ調整、体部内面の上半部はヨコハケ調整、下半部はハケ調整後にナデ調整を施している。底部には、中央に1個の円形の蒸気孔、その周囲に4個の楕円形の蒸気孔が開けられている。5世紀中頃のものと思われる。（第15図-61、第5図-61、写真図版13-2-61）

62甕 口径：22.6cm。器高：22.4cm。厚さ：0.5～4.5cm。色調：内・外・断面は淡黄色（2.5Y 8/3）。把手先端部が黒変。胎土：粗。直径3mm以下の砂粒を多く含む。焼成：良好。残存度：4/5。口縁部外面はヨコナデ調整、体部外面は底部までタテハケ調整、口縁部内面はヨコハケ調整、体部内面の上半部はタテハケ調整、下半部はナデ調整を施している。底部には、中央に1個の円形の蒸気孔、その周囲に4個の楕円形の蒸気孔が開けられている。5世紀中頃のものと思われる。（第15図-62、第5図-62、写真図版13-2-62）

須恵器

63甕 口径：9.2cm（復元）。器高：10.6cm。厚さ：0.2～0.5cm。色調：内面は灰白色（N 7/）、外面は灰色（N 6/）、断面は灰白色（7.5Y 8/）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：口縁部のみ2/3欠損。体部の中位が最大径で底部は丸い。口縁部内外面は回転ナデ調整、体部外面の上半部は回転ヘラケズリ調整後にナデ調整、下半部はヘラケズリ調整後にナデ調整を施している。体部内面の頸部付近には接合時のユビオサエ痕がみられる。頸部外面には波状文を巡らしている。I型式3段階（TK208型式）。5世紀中頃のものと思われる。（第15図-63、第5図-63、写真図版14-1-63）

64無蓋高坏 口径：14.4cm。底径：10.8cm（復元）。器高：10.7cm。厚さ：0.2～1.3cm。色調：内外面は灰色（N 6/）、断面は灰白色（N 7/）。胎土：やや粗。直径3mm以下の砂粒をやや多く含む。焼成：やや不良。残存度：脚部のみ1/2欠損。坏部：口縁部内外面は回転ナデ調整、体部外面は回転ヘラケズリ調整、体部内面はナデ調整。脚部：体部内外面は回転ナデ調整。1個の孔を開けている。I型式3段階（TK208型式）。5世紀中頃。（第15図-64、第5図-64、写真図版14-2-64）

石製品

30有孔円板 直径：2.5cm。厚さ：0.2cm。残存度：完形。滑石製品である。甕54内から出土。（第12図-30、写真図版10-2-30）

31白玉 直径：0.5cm。厚さ：0.2cm。残存度：完形。滑石製品である。甕54内から出土。（第12図-31、写真図版10-2-31）

32白玉 直径：0.5cm。厚さ：0.2cm。残存度：完形。滑石製品である。甕54内から出土。（第12図-32、写真図版10-2-32）

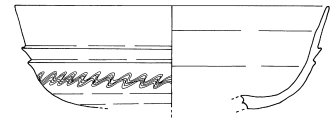
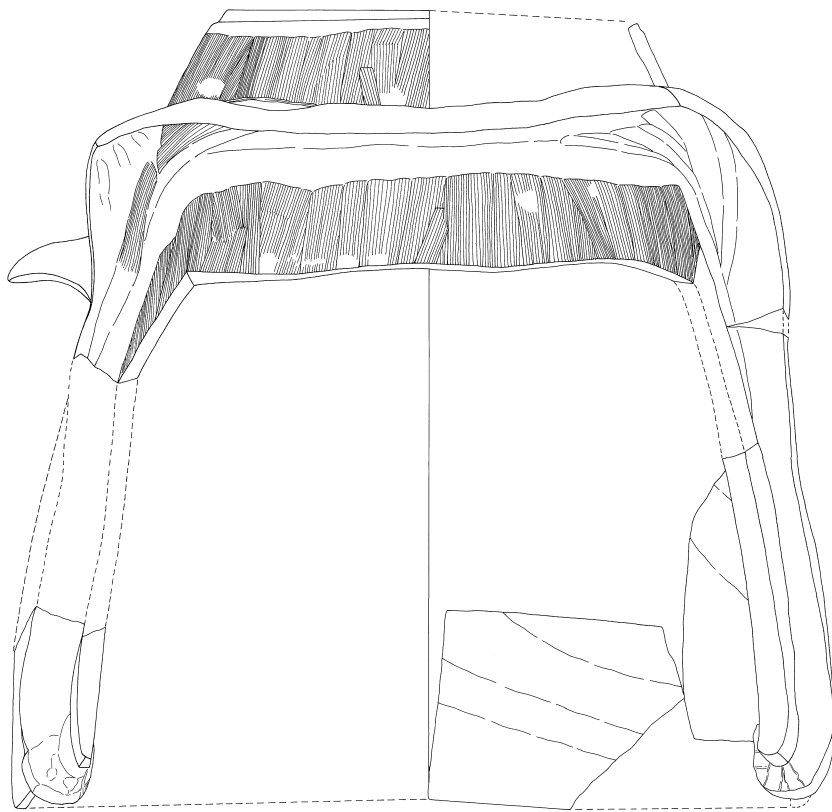
33白玉 直径：0.5cm。厚さ：0.1cm。残存度：完形。滑石製品である。甕54内から出土。（第12図-33、写真図版10-2-33）

34白玉 直径：0.5cm。厚さ：0.2cm。残存度：完形。滑石製品である。甕54内から出土。（第12図-34、写真図版10-2-34）

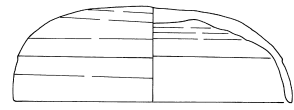
35白玉 直径：0.5cm。厚さ：0.2～0.3cm。残存度：完形。滑石製品である。甕54内から出土。（第12図-35、写真図版10-2-35）

36白玉 直径：0.5cm。厚さ：0.3cm。残存度：完形。滑石製品である。甕54内から出土。（第12図-36、写真図版10-2-36）

37白玉 直径：0.5cm。厚さ：0.2cm。残存度：完形。滑石製品である。甕54内から出土。（第12図-37、写真図版10-2-37）



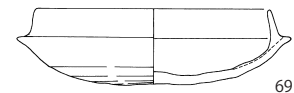
66



67

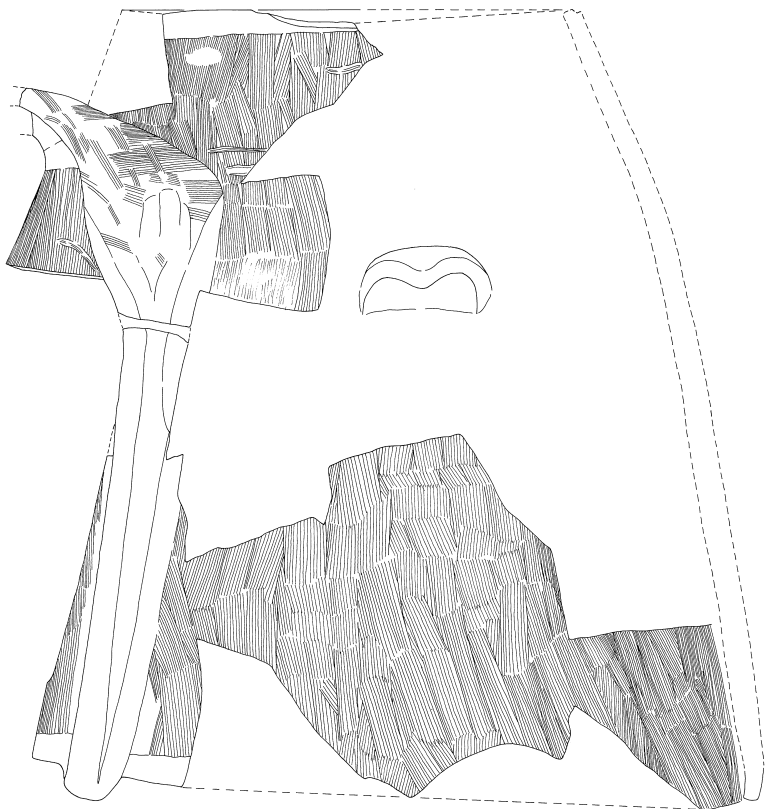


68



69

65-1



65-2



第16図 出土遺物（溝4）

溝2

石製品

24紡錘車 下底径：4.2cm。上底径：2.7cm。孔径：0.6～0.8cm。高さ：1.0cm。残存度：ほぼ完形。滑石製品である。(第12図-24、写真図版9-2-24)

溝4

土製品

65移動式竈 掛け口径：22.0cm(復元)。器高：42.0cm(復元)。厚さ：0.6～3.0cm。色調：内・外・断面は浅黄橙色(7.5YR 8/4)。胎土：やや粗。直径3mm以下の砂粒をやや多く含む。焼成：良好。残存度：1/3。体部外面はタテハケ調整、体部内面と庇の内面はナデ調整を施している。体部外面の中央やや上位に把手が付いている。(第16図-65、第7図-65、写真図版15-1-65)

須恵器

66無蓋高坏 口径：16.6cm(復元)。器高：5.4cm(残存)。厚さ：0.2～0.7cm。色調：内外面は灰色(N 6/)、断面は灰赤色(10R 5/2)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：1/3。口縁部内外面は回転ナデ調整、体部外面は回転ヘラケズリ調整、体部内面はナデ調整を施している。体部外面には2条の稜線があり、その下位に波状文を巡らしている。底部付近に自然釉が掛かっている。I型式3段階～I型式4段階(TK208型式～TK23型式)。5世紀中頃の把手付き無蓋高坏と思われる。溝4周辺から出土。(第16図-66、第6図-66、写真図版15-2-66)

67坏蓋 口径：14.8cm。器高：5.0cm。厚さ：0.3～0.7cm。色調：内・外面は灰色(N 6/)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：完形。天井部にはわずかに稜線がみられ、口縁部内面には段をもたない。天井部外面の2/3程度に回転ヘラケズリ調整を施している。II型式3段階～II型式4段階(MT85型式～TK43型式)。6世紀後半のものと思われる。溝4上面から出土。(第16図-67、第6図-67、写真図版15-2-67)

68坏身 口径：13.0cm(復元)。器高：4.2cm(復元)。厚さ：0.2～0.6cm。色調：内・断面は灰白色(5Y 7/1)、外面は灰色(N 7/)。胎土：やや密。直径3mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：小片。口縁部は内傾し、端部は丸い。体部外面の下部1/2程度に回転ヘラケズリ調整を施している。II型式2段階～II型式3段階(TK10型式～MT85型式)6世紀中頃～後半のものと思われる。溝4上面から出土。(第16図-68、第6図-68、写真図版15-2-68)

69坏身 口径：12.4cm(復元)。器高：4.0cm(復元)。厚さ：0.2～0.6cm。色調：内・外・断面は灰色(N 6/)。胎土：やや密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：1/4。口縁部は内傾し、端部は丸い。体部外面の下部1/2程度に回転ヘラケズリ調整を施している。II型式2段階～II型式3段階(TK10型式～MT85型式)6世紀中頃～後半のものと思われる。溝4周辺から出土。(第16図-69、第6図-69、写真図版15-2-69)

溝102

銅銭

25長年大寶 直径：2.0cm。厚さ：0.1cm。848年(嘉祥元年)初鑄の皇朝十二銭。(第12図-25、写真図版10-1-25)

26明道元寶 直径：2.5cm。厚さ：0.15cm。1032年(明道元年)初鑄の北宋銭。(第12図-26、写真図版10-1-26)

溝103

金属製品

27带金具 縦長：2.5cm。横長：2.7cm。厚さ：0.1～0.2cm。下部に0.3×2cmの長方形の孔を開けている。断面形態は凹形であり、裏面の四隅には帯に装着するための突起がある。青銅製の巡方である。(第12図-27、写真図版10-1-27)

井戸 2 (土坑102)

瓦器

70碗 口径：14.2cm。器高：4.6cm。厚さ：0.2～0.4cm。色調：内・外面は灰色 (N 4/)。胎土：密。直径 1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整を施している。体部外面は粗いヘラミガキ調整、体部内面はやや粗いヘラミガキ調整を施している。口縁部内端には段が確認できる。見込部には連結輪状の暗文を施している。高台の断面形は台形を呈する。大和型Ⅱ-B段階。12世紀中頃のものと思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第17図-70、写真図版16-2-70)

71碗 口径：14.4cm。器高：4.9cm。厚さ：0.2～0.5cm。色調：内・外面は灰色 (N 5/)。外面の一部は灰白色 (7.5Y 8/1)。胎土：密。直径 1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整を施している。体部外面にはユビオサエ痕がみられやや粗いヘラミガキ調整、体部内面はやや粗いヘラミガキ調整を施している。口縁部内端には段が確認できる。見込部には連結輪状の暗文を施している。高台の断面形は三角形を呈する。大和型Ⅲ-A (新) 段階。12世紀後葉～13世紀初頭のものと思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第17図-71、第9図-71、写真図版16-2-71)

72碗 口径：14.4cm。器高：5.0cm。厚さ：0.2～0.5cm。色調：内・外面は灰色 (N 4/)。胎土：密。直径 1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：ほぼ完形。口縁部内外面はヨコナデ調整を施している。体部外面にはユビオサエ痕がみられ粗いヘラミガキ調整、体部内面はやや粗いヘラミガキ調整を施している。口縁部内端には段が確認できる。見込部には連結輪状の暗文を施している。高台の断面形はやや低い三角形を呈する。大和型Ⅲ-B段階。13世紀前半のものと思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第17図-72、写真図版16-2-72)

73碗 口径：14.4cm。器高：4.9cm。厚さ：0.2～0.5cm。色調：内・外面は灰色 (N 4/)、断面は灰白色 (N 8/)。胎土：密。直径 1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：8/9。口縁部内外面はヨコナデ調整を施している。体部外面にはユビオサエ痕がみられ粗いヘラミガキ調整、体部内面はやや粗いヘラミガキ調整を施している。口縁部内端には沈線が確認できる。見込部には連結輪状の暗文を施している。高台の断面形は低い三角形を呈する。体部の底は、高台の畳付けと同じ位置まで膨らんでいる。大和型Ⅲ-B段階。13世紀前半のものと思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第17図-73、写真図版16-2-73)

74碗 口径：14.6cm。器高：4.9cm。厚さ：0.2～0.5cm。色調：内・外面は灰色 (N 4/)、断面は灰白色 (N 8/)。胎土：密。直径 1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：3/4。口縁部内外面はヨコナデ調整を施している。体部外面にはユビオサエ痕がみられ粗いヘラミガキ調整、体部内面はやや粗いヘラミガキ調整を施している。口縁部内端には段が確認できる。見込部には連結輪状の暗文を施している。高台の断面形は低い三角形を呈する。大和型Ⅲ-B段階。13世紀前半のものと思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第17図-74、写真図版16-2-74)

75碗 口径：14.2cm。器高：4.9cm。厚さ：0.2～0.5cm。色調：内・外面は灰色 (N 4/)、断面は灰白色 (N 8/)。胎土：密。直径 1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：1/2。口縁部内外面はヨコナデ調整を施している。体部外面にはユビオサエ痕がみられ粗いヘラミガキ調整、体部内面はやや粗いヘラミガキ調整を施している。口縁部内端には段が確認できる。見込部には連結輪状の暗文を施している。高台の断面形は三角形を呈する。大和型Ⅲ-B段階。13世紀前半のものと思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第17図-75、写真図版16-2-75)

76碗 口径：15.2cm。器高：5.2cm。厚さ：0.3～0.5cm。色調：内・外面は灰色 (N 4/)、断面は灰白色 (N 8/)。胎土：密。直径 1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：1/2。口縁部内外面はヨコナデ調整を施している。体部外面にはユビオサエ痕がみられやや粗いヘラミガキ調整、体部内面はやや粗いヘラミガキ調整を施している。口縁部内端には段が確認できる。見込部には連結輪状の暗文を施している。高台の断面形は低い三角形を呈する。大和型Ⅲ-B段階。13世紀前半のものと思

われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第17図-76、写真図版16-2-76)

77碗 口径：14.6cm。器高：4.6cm。厚さ：0.2~0.5cm。色調：内・外面は灰白色(N 7/)、断面は灰白色(7.5YR 8/1)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：やや不良。残存度：1/2。口縁部内外面はヨコナデ調整を施している。体部外面にはユビオサエ痕がみられやや粗いヘラミガキ調整、体部内面はやや粗いヘラミガキ調整を施している。口縁部内端には段が確認できる。見込部には連結輪状の暗文を施している。高台の断面形はやや低い三角形を呈する。大和型Ⅲ-B段階。13世紀前半のものと思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第17図-77、第9図-77、写真図版16-2-77)

78皿 口径：9.0cm。器高：1.9cm。厚さ：0.2~0.5cm。色調：内・外面は灰色(N 4/)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整を施している。体部外面にはユビオサエ痕がみられる。体部内面はナデ調整を施している。底部内面にはジグザグ状の暗文を施している。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第18図-78、写真図版17-1-78)

79皿 口径：9.8cm(復元)。器高：1.9cm(残存)。厚さ：0.2~0.4cm。色調：内・外・断面は灰白色(10YR 8/1)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：不良。残存度：1/3。口縁部内外面はヨコナデ調整を施している。体部外面にはユビオサエ痕がみられる。体部内面はナデ調整を施している。底部内面にはジグザグ状の暗文を施している。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第18図-79、写真図版17-1-79)

80皿 口径：9.5cm(復元)。器高：1.5cm(復元)。厚さ：0.2~0.3cm。色調：内・外・断面は灰白色(7.5YR 8/2)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：不良。残存度：2/3。口縁部内外面はヨコナデ調整を施している。体部外面にはユビオサエ痕がみられる。体部内面はナデ調整を施している。底部内面にはジグザグ状の暗文を施している。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第18図-80、写真図版17-1-80)

黒色土器

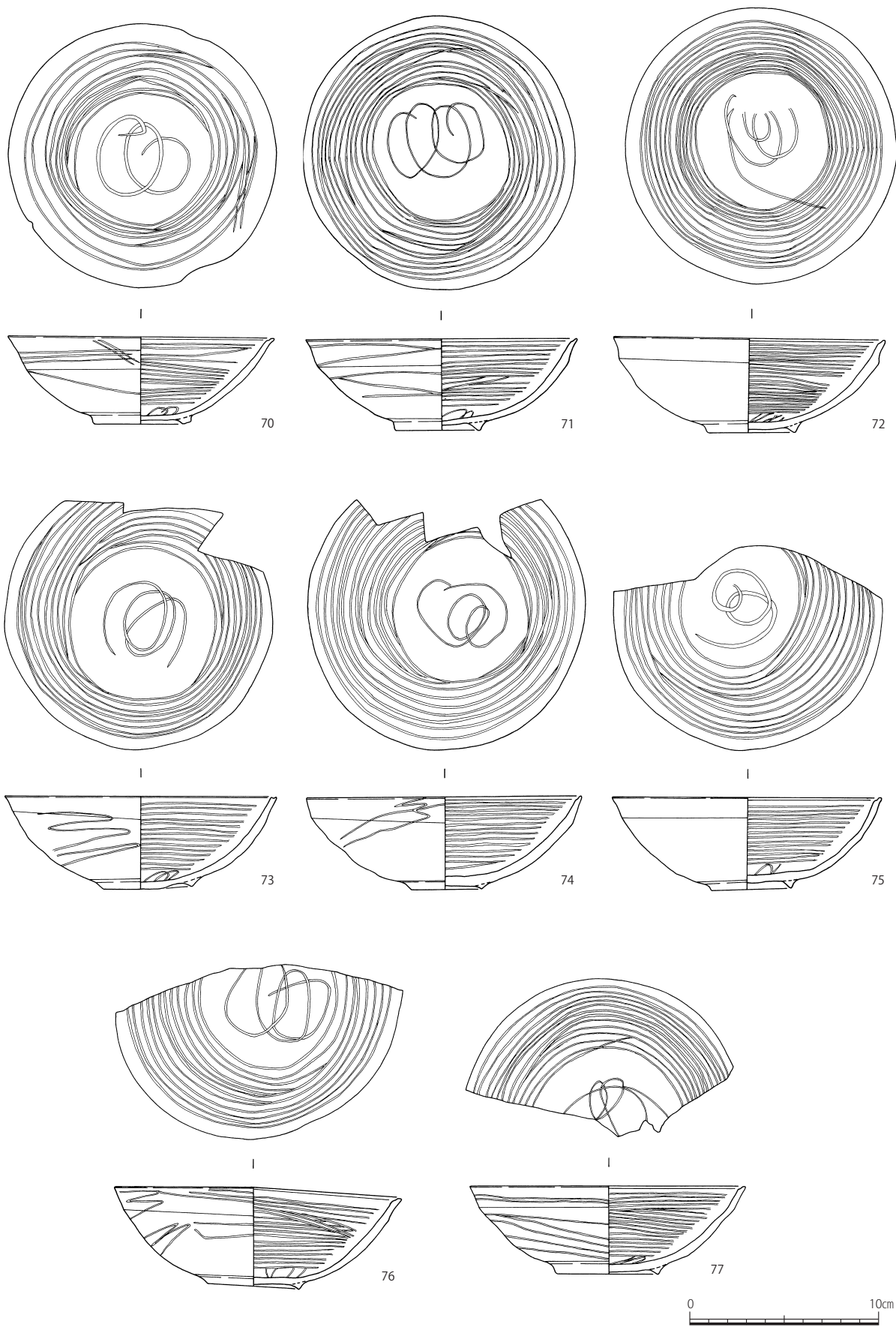
81碗 口径：14.4cm(復元)。器高：5.5cm(復元)。厚さ：0.2~0.4cm。色調：内面は暗灰色(N 3/)、外面は橙色(5YR 7/6)、断面は浅黄橙色(7.5YR 8/3)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：1/5。体部内外面はナデ調整を施している。体部内面はやや密なヘラミガキ調整を施している。口縁部内端には段が確認できる。高台の断面形は高い三角形を呈する。畿内系Ⅲ類の黒色土器A類。10世紀末頃のものと思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第18図-81、第9図-81、写真図版17-1-81)

82碗 口径：10.4cm(復元)。器高：5.2cm(残存)。厚さ：0.2~0.4cm。色調：内・外・断面は暗灰色(N 3/)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：1/4。体部内外面は緻密なヘラミガキ調整を施している。口縁部内端には段が確認できる。高台の断面形は非常に低い三角形を呈する。体部の底が膨らんでいるため、高台の機能をはたしていない。畿内系Ⅳ類の黒色土器B類。11世紀初頭頃のものと思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第18図-82、写真図版17-1-82)

土師器

83皿 口径：8.0cm。器高：1.5cm。厚さ：0.2~0.4cm。色調：内・外面は浅黄橙色(7.5YR 8/4)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。体部外面に切り込み円板成形技法による粘土接合痕がみられる。Jbタイプの13世紀前半のものと思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第18図-83、写真図版17-1-83)

84皿 口径：9.4cm。器高：1.4cm。厚さ：0.1~0.2cm。色調：内・外面は灰白色(10YR 8/2)、断面は褐灰色(10YR 6/1)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：やや不良。残存度：9/10。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はハケ調整を施している。体部外面に切り込み円板成形技法による粘土接合痕がみられる。体部外面の一部は剥離している。(井



第17図 出土遺物（井戸2（土坑102））

戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第18図-84、写真図版17-1-84)

85皿 口径：8.6cm。器高：1.2cm。厚さ：0.2～0.3cm。色調：内面は淡橙色（5YR 8/3）、外面は浅黄橙色（7.5YR 8/4）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。体部外面に切り込み円板成形技法による粘土接合痕がみられる。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第18図-85、写真図版17-1-85)

86皿 口径：8.6cm。器高：1.6cm。厚さ：0.3～0.4cm。色調：内・外面は浅黄橙色（7.5YR 8/4）。胎土：やや粗。直径2mm以下の砂粒をやや多く含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第18図-86、写真図版17-1-86)

87皿 口径：8.8cm。器高：1.5cm。厚さ：0.3～0.4cm。色調：内・外面は灰白色（10YR 8/2）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jbタイプの13世紀前半のものと思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第18図-87、第9図-87、写真図版17-1-87)

88皿 口径：9.4cm。器高：1.6cm。厚さ：0.3～0.4cm。色調：内・外面は浅黄橙色（7.5YR 8/4）。胎土：やや粗。直径2mm以下の砂粒をやや多く含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jbタイプの13世紀前半のものと思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第18図-88、写真図版17-1-88)

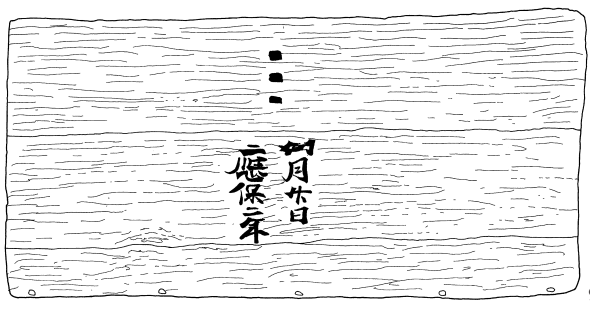
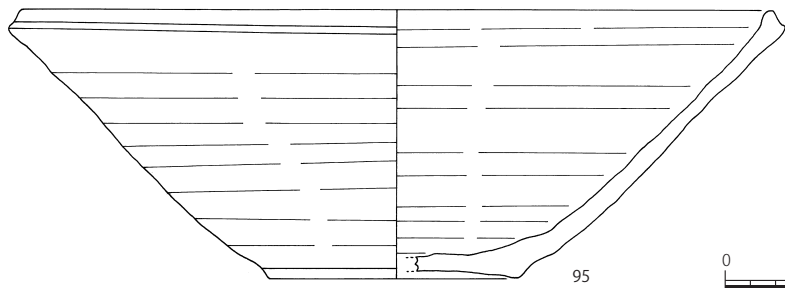
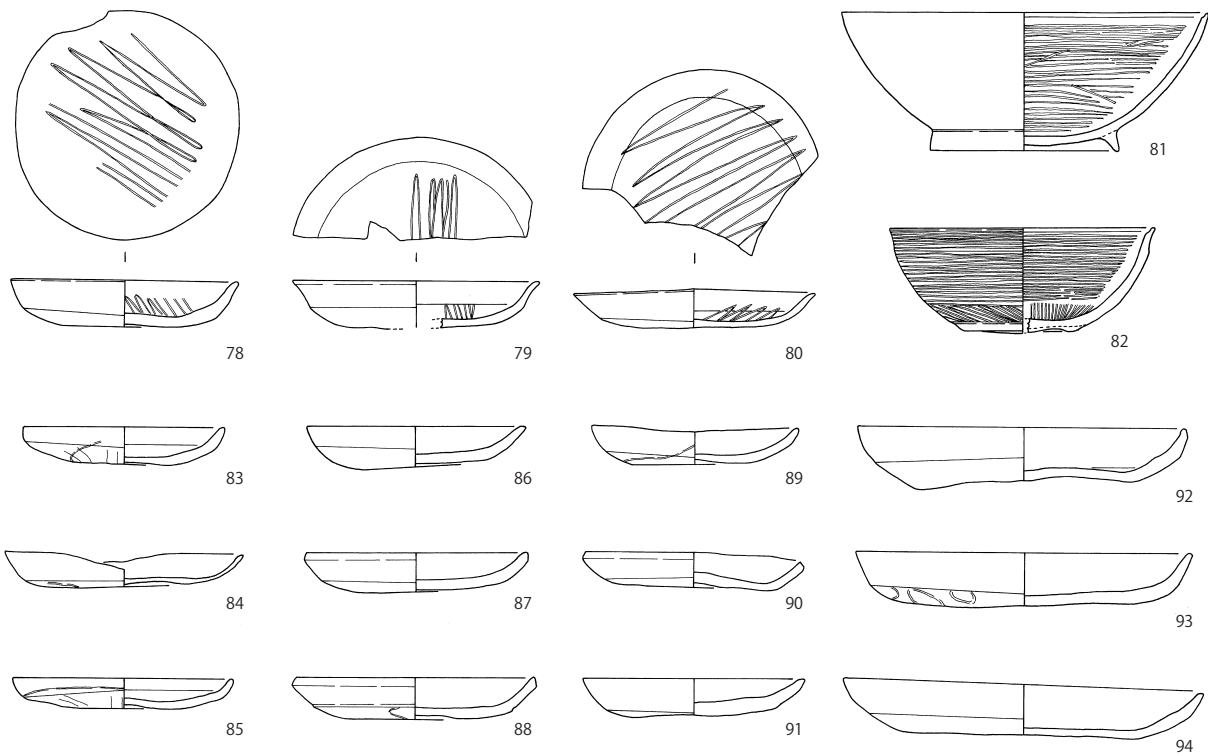
89皿 口径：8.6cm。器高：1.5cm。厚さ：0.2～0.4cm。色調：内面は灰黄褐色（10YR 4/2）、外面はにぶい黄橙色（10YR 7/3）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。体部外面に切り込み円板成形技法による粘土接合痕がみられる。Jbタイプの13世紀前半のものと思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第18図-89、第9図-89、写真図版17-1-89)

90皿 口径：8.6cm。器高：1.4cm。厚さ：0.3～0.4cm。色調：内・外面は浅黄橙色（7.5YR 8/3）、断面は灰白色（5YR 8/1）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：3/4。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jbタイプの13世紀前半のものと思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第18図-90、写真図版17-1-90)

91皿 口径：8.8cm。器高：1.5cm。厚さ：0.3～0.6cm。色調：内・外面は浅黄橙色（7.5YR 8/3）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第18図-91、第9図-91、写真図版17-1-91)

92皿 口径：13.0cm。器高：2.1cm。厚さ：0.3～0.5cm。色調：内・外面は浅黄橙色（10YR 8/4）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jbタイプの13世紀前半のものと思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第18図-92、第9図-92、写真図版17-1-92)

93皿 口径：13.2cm。器高：2.1cm。厚さ：0.3～0.6cm。色調：内・外面は浅黄橙色（10YR 8/4）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jaタイプの12世紀後半のものと思



第18図 出土遺物 (井戸2 (土坑102))

思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第18図-93、第9図-93、写真図版17-1-93)

94皿 口径：14.3cm。器高：2.0cm。厚さ：0.3~0.5cm。色調：内・外・断面は灰白色(10YR 8/2)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：3/4。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。Jaタイプの12世紀後半のものと思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第18図-94、第9図-94、写真図版17-1-94)

須恵質土器

95片口鉢 口径：29.6cm(復元)。器高：10.7cm(残存)。厚さ：0.5~1.2cm。色調：内・外・断面は灰色(N 6/)。胎土：密。直径1~3mmの砂粒と小石を少量含む。焼成：良好。残存度：1/2。底部外面は回転糸切り後未調整。東播系の製品。第Ⅱ期第2段階。12世紀末~13世紀初頭のものと思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第18図-95、第9図-95、写真図版17-1-95)

木製品

96曲物 直径：50.5cm。高さ：23.0cm。厚さ：0.5cm。ヒノキ材。接合部はサクラの皮で繋いでいる。この曲物は井戸2の底部中央に集水施設として設置されていたものである。曲物の下端部に直径2mm程度の円形の孔を等間隔に開けていることから、セイロなどの転用品と思われる。その外面の一部には二行縦書きで、右から『如月廿日』『應保二年』と墨書されている。應保二年は西暦1162年である。井戸に設置する際に墨書されたものとする。(第18図-96、第10図-96、写真図版17-2-96)

石製品

28砥石 長さ：5.1cm(残存)。最大幅：3.8cm。最大厚さ：4.2cm。残存度：小片。砥面は4面残存する。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第12図-28、写真図版9-3-28)

貿易陶磁器

29青白磁印花蓮弁文合子蓋 口径：4.0cm。器高：1.3cm。厚さ：0.2~0.25cm。色調：内面は灰白色(2.5GY 8/1)、外面は明緑灰色(10GY 8/1)。胎土：緻密。焼成：良好。残存度：完形。天井部に10枚の蓮弁と9枚の間弁により蓮花を表現する。☒期の12世紀中頃~後半と思われる。井戸の使用を停止し、埋め戻し後に行った祭祀時のものと思われる。(第12図-29、写真図版9-4-29)

2. 第2遺構面遺構出土遺物

土坑202

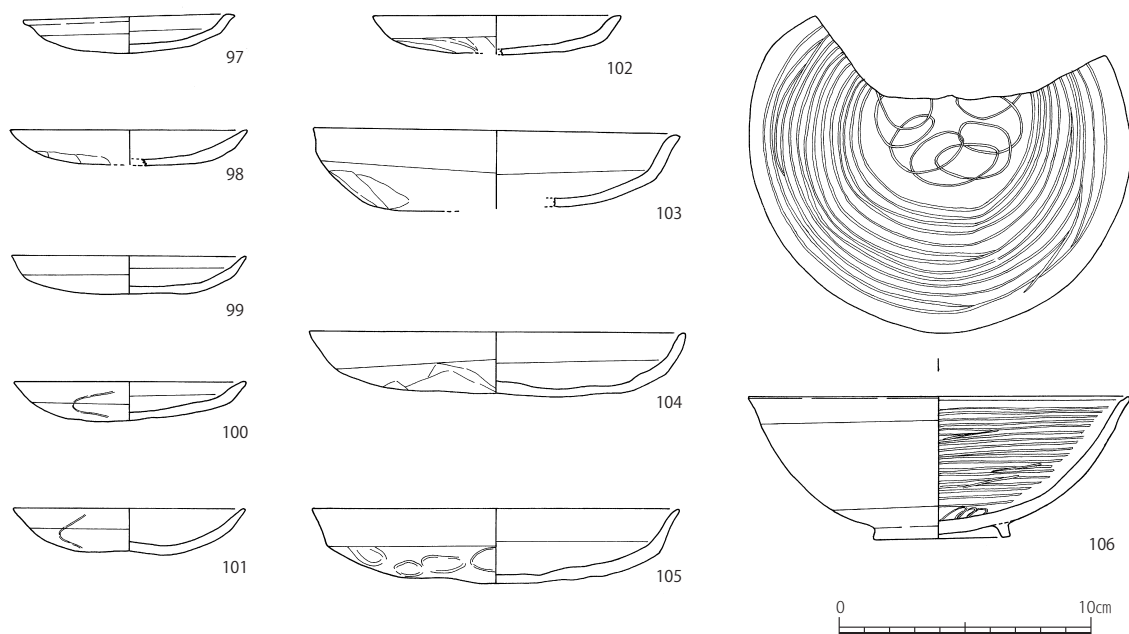
土師器

97皿 口径：8.2cm。器高：1.5cm。厚さ：0.3~0.4cm。色調：内・外・断面は灰白色(10YR 8/2)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：不良。残存度：1/2。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。口縁端部はナデ調整によりやや外反している。11世紀末~12世紀初頭のものと思われる。(第19図-97、写真図版18-2-97)

98皿 口径：9.4cm(復元)。器高：1.4cm(残存)。厚さ：0.2~0.5cm。色調：内・外・断面はにぶい褐色(7.5YR 6/3)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：3/4。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。11世紀末~12世紀初頭のものと思われる。(第19図-98、写真図版18-2-98)

99皿 口径：9.8cm(復元)。器高：1.5cm(復元)。厚さ：0.2~0.4cm。色調：内・外・断面は浅黄橙色(10YR 8/4)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：1/2。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。11世紀末~12世紀初頭のものと思われる。(第19図-99、写真図版18-2-99)

100皿 口径：9.2cm。器高：1.5cm。厚さ：0.2~0.4cm。色調：内・外面は浅黄橙色(7.5YR 8/3)。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。体部外面に切り込み円板成形技



第19図 出土遺物（土坑202）

法による粘土接合痕がみられる。11世紀末～12世紀初頭のものと思われる。（第19図-100、写真図版18-2-100）

101皿 口径：9.2cm。器高：1.7cm。厚さ：0.2～0.4cm。色調：内・外面はにぶい橙色（7.5YR 7/4）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：ほぼ完形。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。体部外面に切り込み円板成形技法による粘土接合痕がみられる。11世紀末～12世紀初頭のものと思われる。（第19図-101、写真図版18-2-101）

102皿 口径：9.8cm（復元）。器高：1.5cm（残存）。厚さ：0.2～0.5cm。色調：内・外・断面は浅黄橙色（7.5YR 8/4）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：3/4。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。11世紀末～12世紀初頭のものと思われる。（第19図-102、写真図版18-2-102）

103皿 口径：14.5cm。器高：3.2cm（残存）。厚さ：0.3～0.5cm。色調：内・外・断面は黄橙色（10YR 8/6）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：7/10。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。11世紀末～12世紀初頭のものと思われる。（第19図-103、写真図版18-2-103）

104皿 口径：14.8cm。器高：2.4cm。厚さ：0.3～0.5cm。色調：内面は灰白色（10TR 8/2）、外・断面は浅黄橙色（7.5YR 8/4）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：7/8。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。11世紀末～12世紀初頭のものと思われる。（第19図-104、写真図版18-2-104）

105皿 口径：14.4cm。器高：3.0cm。厚さ：0.2～0.5cm。色調：内面は灰白色（10TR 8/2）、外・断面は浅黄橙色（7.5YR 8/4）。胎土：密。直径2mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：9/10。口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はユビオサエ調整、体部内面はナデ調整を施している。11世紀末～12世紀初頭のものと思われる。（第19図-105、写真図版18-2-105）

瓦器

106碗 口径：15.0cm。器高：5.7cm。厚さ：0.2～0.5cm。色調：内・外面は灰色（N 4/）、断面は灰白色（7.5Y 8/2）。胎土：密。直径1mm以下の砂粒を少量含む。焼成：良好。残存度：2/3。口縁部内外面はヨコナデ調整を施している。体部外面はこの調整は器面の摩耗により不明、体部内面は密なへ

ラミガキ調整を施している。口縁部内端には段が確認できる。見込部には連結輪状の暗文を施している。高台の断面形は高い台形を呈する。大和型 I - C ~ D。11世紀末~12世紀初頭のものと思われる。(第19図-106、写真図版18-2-106)

(村上)

第4章 調査のまとめ

第1節 調査のまとめ

今回報告した中野遺跡の2次にわたる調査では、遺跡中央の状況を南北方向に確認することができ、古墳時代から中世にわたる多くの成果があった。以下、遺構・遺物の時期ごとにまとめを行っていきたい。

古墳時代 報告遺構の中では土坑107および溝2・4がこの時期のものであった。このうち土坑107は古墳時代中期のもので、その規模や形態からは井戸である可能性が指摘できる。内部からは多くの土器が出土し、うち1点は内部から滑石製有孔円盤や白玉が出土した。これらは、井戸を廃絶する祭祀に用いられ、井戸内に遺棄された可能性があるだろう。

また、遺物がまとまって出土した溝4は古墳時代後期のものであった。溝4は現代の攪乱を挟んで南側の溝と一連のものともみられ、その溝は東方向と西方向に分かれていた。このうち西方向への溝は溝4の続きからほぼ直角に曲がっているとみられ、溝4自体が西へと屈曲することとあわせると、一辺8mほどの方形区画を構成する可能性が考えられる。こういった集落内の方形区画としては、周辺では奈良井遺跡で一辺約40mのものを検出している（野島1980b、野島・村上2000、野島・村上・實盛2012）。奈良井遺跡のものは祭祀施設と考えられ、犠牲馬の首や人形・馬形土製品等が出土している。今回検出した中野遺跡のものは、規模が小さく、その性格を決定するまでは至らないが、こういった施設等が存在した可能性を考慮に入れるべきであろう。

溝4の出土遺物には製塩土器が含まれており、製塩土器は市域で行われた馬飼いとの関係性が指摘されている（野島1979b、1984b）。製塩土器の存在から示唆されるように、今回検出した古墳時代の遺構群も、市域で広く行われた馬飼いの営みの中で残されたものであろう。

平安時代～鎌倉時代 この調査で最も多く検出した遺構はこの時期のものである。特筆すべきは井戸2で、應保二年の墨書がある曲物井戸枠や青白磁合子蓋などを含む多くの遺物が出土した。特に墨書曲物は、年代が分かる資料として貴重なものであり、平成25年度に四條畷市指定有形文化財に指定された資料である。應保二年は1162年にあたり、平安時代末の年代の定点となる資料であろう。

近接して検出した井戸1は、出土遺物からみると井戸2と同時併存した期間がある可能性が高い。このように構造上ほぼ同一かつ大規模な井戸が同時に存在したことから、それぞれの井戸の用途や役割が異なっていた可能性も考慮に入れるべきであろう。

他の特筆すべき遺構としては、青銅製巡方が出土した溝103、長年大寶や明道元寶などが出土した溝102があげられる。両遺構は東西および南北方向のほぼ正方位をとるうえ、溝102に区画された南側ではPit群の検出数が北側より比較的多くなっている。両溝はこれらのPit群を区画する意図をもって掘削された可能性があると考えられる。特に青銅製巡方などの出土からは、付近に官衙等重要施設の存在が想定される（村上2003、四條畷市史編さん委員会編2016）。建物を復元できたわけではないため断定は避けるが、付近にそういった施設が存在した可能性は十分にあるといえるだろう。

周辺の調査では、1989年度の公共下水道工事に伴う調査で、青銅製銚帯（丸軛）が出土している（野島1990）。近接した位置で、帯に用いられる銚帯の巡方と丸軛がともに出土していることは、中野遺跡の重要性を際立たせる資料ということができるだろう。

これまで、讚良郡の郡衙所在地を市内の岡山南遺跡に求める説があった（藤澤1977）。しかし、これまでの出土遺物に鑑みると、中野遺跡では銚帯や皇朝十二銭の出土があり、墨書遺物の存在もことから、資料が充実してきているといえる。また、今回報告した調査地においては、建物を区画する可能性のある正方位の溝や、隣接して築かれる大規模な井戸などがあり、重要施設の存在が想定できる。今後の調査の進展によっては、中野遺跡を讚良郡の郡衙所在地の候補地として挙げる可能性があるだろう。この点については、今後も遺跡内において調査を継続し、検討していくこととしたい。

（實盛）

参考文献

- 後川恵太郎・實盛良彦・井上智博編2015『讚良郡条里遺跡』四條畷市教育委員会・寝屋川市教育委員会・公益財団法人大阪府文化財センター。
- 阿部幸一1999『雁屋遺跡発掘調査概要』Ⅳ、大阪府教育委員会。
- 井上智博・多賀晴司編2003『讚良郡条里遺跡』その2、財団法人大阪府文化財センター。
- 井上智博編2008『讚良郡条里遺跡』Ⅵ、財団法人大阪府文化財センター。
- 岩瀬 透・藤田道子・宮崎泰史・藤永正明編2010『部屋北遺跡』Ⅰ、大阪府教育委員会。
- 岩瀬 透編2012『部屋北遺跡』Ⅱ、大阪府教育委員会。
- 梅原末治1937「河内四條畷村忍岡古墳」『日本古文化研究所報告』第4、日本古文化研究所。
- 梅原末治1985『銅鐸の研究』木耳社。
- 大賀克彦2002「古墳時代の時期区分」『小羽山古墳群』清水町教育委員会。
- 大阪府教育委員会編1970『四條畷町、正法寺跡発掘調査概報』大阪府教育委員会。
- 片山長三1967a「枚方台地の先土器時代遺跡」『枚方市史』第一巻、枚方市役所。
- 片山長三1967b「縄文時代遺跡」『枚方市史』第一巻、枚方市役所。
- 鐘方正樹2003『井戸の考古学』同成社。
- 木下保明編2004『小路遺跡（その3）』（財）大阪府文化財センター。
- 黒須亜希子編2004『高宮遺跡（その2）』（財）大阪府文化財センター。
- 黒田 淳1989「飯盛山城跡の調査」『大東市埋蔵文化財発掘調査概報』1988年度、大東市教育委員会。
- 黒田 淳1997『北新町遺跡第3次発掘調査概要報告書』大東市北新町遺跡調査会。
- 黒田 淳2013『飯盛山城遺跡測量調査報告書』大東市教育委員会。
- 古代の土器研究会編1992『都城の土器集成』古代の土器研究会。
- 古代の土器研究会編1993『都城の土器集成』Ⅱ、古代の土器研究会。
- 近藤章子・山本雅和・多賀晴司編2006『讚良郡条里遺跡』Ⅳ、財団法人大阪府文化財センター。
- 佐伯博光・六辻彩香編2007『讚良郡条里遺跡』Ⅴ、財団法人大阪府文化財センター。
- 櫻井敬夫1972「考古学」『四條畷市史』第1巻、四條畷市役所。
- 櫻井敬夫・佐野喜美・野島稔2006『こども歴史 わたしたちの四條畷』四條畷市教育委員会。
- 櫻井敬夫・佐野喜美・野島稔2010『歴史とみどりのまち ふるさと四條畷』四條畷市教育委員会。
- 四條畷市教育委員会編2002『みどりの風と古墳』第17回特別展、四條畷市立歴史民俗資料館。
- 四條畷市教育委員会編2004『馬と生きる』開館20周年記念特別展、四條畷市立歴史民俗資料館。
- 四條畷市教育委員会編2008『ひとつぶの糶』第23回特別展、四條畷市立歴史民俗資料館。
- 四條畷市史編さん委員会編2016『四條畷市史』第5巻考古編、四條畷市。
- 瀬川芳則1992「最古の木製下駄」『考古学と生活文化』同志社大学考古学シリーズⅤ、同刊行会。
- 大東市北新町遺跡調査会編1991『北新町遺跡第2次発掘調査概要報告書』大東市北新町遺跡調査会。
- 大東市教育委員会・四條畷市教育委員会2013『飯盛城跡縄張測量図』大東市教育委員会・四條畷市教育委員会。
- 田辺昭三1981『須恵器大成』角川書店。
- 中世土器研究会編1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社。
- 辻本 武1987『雁屋遺跡発掘調査概要』大阪府教育委員会。
- 寺沢 薫1986「畿内古式土師器の編年と二、三の問題」『矢部遺跡』奈良県教育委員会。
- 寺沢 薫・森岡秀人編1989『弥生土器の様式と編年』近畿編Ⅰ、木耳社。
- 中尾智行・山根 航編2009『讚良郡条里遺跡』Ⅷ、財団法人大阪府文化財センター。
- 中村 浩2001『和泉陶器窯出土須恵器の型式編年』芙蓉書房出版。
- 西尾 宏1987『中野遺跡発掘調査概要』Ⅳ、四條畷市教育委員会。
- 西尾 宏1988『中野遺跡発掘調査概要』Ⅴ、四條畷市教育委員会。
- 野島 稔1977「四條畷市中野遺跡」『まんだ』第2号、まんだ編集部。
- 野島 稔1978a「中野遺跡発掘調査概要」Ⅰ、四條畷市教育委員会。
- 野島 稔1978b「南山下遺跡」『まんだ』第5号、まんだ編集部。
- 野島 稔1978c「大阪府四條畷市発見の製塩土器」『古代学研究』第86号、古代学研究会。
- 野島 稔1979a「岡山南遺跡出土の古代下駄」『まんだ』第8号、まんだ編集部。
- 野島 稔1979b「大阪府下における製塩土器出土遺跡」『ヒストリア』第82号、大阪歴史学会。
- 野島 稔1980a「清滝古墳群発掘調査概要」四條畷市文化財研究調査会。
- 野島 稔1980b「四條畷市奈良井遺跡（2）」『まんだ』第9号、まんだ編集部。
- 野島 稔1980c「四條畷市奈良田遺跡」『まんだ』第9号、まんだ編集部。
- 野島 稔1981『更良岡山古墳群発掘調査概要』四條畷市教育委員会。
- 野島 稔1982『岡山南遺跡発掘調査概要』Ⅱ、四條畷市教育委員会。
- 野島 稔1983『忍ヶ丘駅前遺跡発掘調査概要』Ⅱ、四條畷市教育委員会。
- 野島 稔1984a『雁屋遺跡発掘調査概要』Ⅰ、四條畷市教育委員会。
- 野島 稔1984b「河内の馬飼」『万葉集の考古学』筑摩書房。
- 野島 稔1985「四條畷市南野米崎遺跡」『まんだ』第24号、まんだ編集部。
- 野島 稔1986a『四條畷市埋蔵文化財発掘調査概要—1985年度—』四條畷市教育委員会。
- 野島 稔1986b『中野遺跡発掘調査概要』Ⅲ、四條畷市教育委員会。
- 野島 稔1987a『雁屋遺跡』四條畷市教育委員会。
- 野島 稔1987b『岡山南遺跡発掘調査概要』Ⅳ、四條畷市教育委員会。
- 野島 稔1987c「四條畷市、南山下遺跡出土の馬形埴輪」『まんだ』第30号、まんだ編集部。
- 野島 稔1987d「四條畷市南山下遺跡」『まんだ』第30号、まんだ編集部。
- 野島 稔1987e「南野米崎遺跡」『韓式系土器研究』Ⅰ、韓式系土器研究会。

- 野島 稔1988「四條畷市“南山下遺跡”」『まんだ』第35号、まんだ編集部。
- 野島 稔1990「四條畷市・中野遺跡」『まんだ』第39号、まんだ編集部。
- 野島 稔1991「南野米崎遺跡」『韓式系土器研究』Ⅲ、韓式系土器研究会。
- 野島 稔1992「四條畷市・大上遺跡」『まんだ』第47号、まんだ編集部。
- 野島 稔1993a「四條畷市忍ヶ丘駅前遺跡」『まんだ』第49号、まんだ編集部。
- 野島 稔1993b「四條畷市鎌田遺跡（一）」『まんだ』第50号、まんだ編集部。
- 野島 稔1994a「雁屋遺跡発掘調査概要－四條畷市江瀬美町所在－」四條畷市教育委員会。
- 野島 稔1994b「四條畷市鎌田遺跡（二）」『まんだ』第51号、まんだ編集部。
- 野島 稔1994c「四條畷市・四條畷小学校内遺跡」『まんだ』第53号、まんだ編集部。
- 野島 稔1995『南野遺跡発掘調査報告書』四條畷市教育委員会。
- 野島 稔1996a「四條畷市坪井遺跡」『まんだ』第57号、まんだ編集部。
- 野島 稔1996b「鍛冶工房のある風景」『まんだ』第58号、まんだ編集部。
- 野島 稔1997a「五絃の琴」『まんだ』第60号、まんだ編集部。
- 野島 稔1997b「四條畷市更良岡山遺跡（一）」『まんだ』第62号、まんだ編集部。
- 野島 稔1997c「はにわはともだち」第12回特別展、四條畷市立歴史民俗資料館。
- 野島 稔1999「四條畷市大上古墳群」『まんだ』第66号、まんだ編集部。
- 野島 稔編2000『更良岡山遺跡発掘調査概要報告書』四條畷市教育委員会。
- 野島 稔2006『四條畷市内遺跡発掘調査概要報告書』四條畷市教育委員会。
- 野島 稔2008「王権を支えた馬」『牧の考古学』高志書院。
- 野島 稔2009「河内湖東岸における古墳と古代豪族の動向」『北河内の古墳』財団法人交野市文化財事業団。
- 野島 稔・藤原忠雄・花田照也1976『岡山南遺跡発掘調査概要』Ⅰ、四條畷市教育委員会。
- 野島 稔・藤原忠雄・花田照也1977『正法寺跡発掘調査概要』四條畷市教育委員会。
- 野島 稔・前田 暢1984『岡山南遺跡・中野遺跡発掘調査概要』Ⅲ、四條畷市教育委員会。
- 野島 稔・村上 始1999『正法寺跡・大上遺跡発掘調査概要』四條畷市教育委員会。
- 野島 稔・村上 始2000『奈良田遺跡・奈良井遺跡発掘調査概要報告書』四條畷市教育委員会。
- 野島 稔・村上 始2001『南山下遺跡発掘調査概要報告書』四條畷市教育委員会。
- 野島 稔・村上 始2002『正法寺跡発掘調査概要報告書』四條畷市教育委員会。
- 野島 稔・村上 始・實盛良彦2012『奈良井遺跡発掘調査概要報告書』四條畷市教育委員会。
- 原田昌則・尾崎良史2014『考古資料からみる八尾の歴史』公益財団法人八尾市文化財調査研究会。
- 平尾兵吾1931『北河内史蹟史話』（1973年増補再刊）。
- 藤澤一夫1977「河内国讃良郡々街跡即四條畷市岡山南遺跡説」『大阪文化誌』第3巻第1号、財団法人大阪文化財センター。
- 松岡良憲1987『中野遺跡発掘調査概報』四條畷市教育委員会。
- 宮崎泰史・藤永正明編2006『年代のものさし』大阪府立近つ飛鳥博物館。
- 宮野淳一1992『更良岡山遺跡発掘調査概要』大阪府教育委員会。
- 三好 玄・杉本厚典・野島 稔・深澤芳樹2007「弥生時代後期周溝状遺構に伴う土器群」『大阪歴史博物館研究紀要』第6号、財団法人大阪市文化財協会。
- 六辻彩香編2006『小路遺跡』Ⅲ、(財)大阪府文化財センター。
- 村上 始1997a「木間池北方遺跡発掘調査概要」四條畷市教育委員会。
- 村上 始1997b「忍ヶ丘駅前遺跡発掘調査概要」四條畷市教育委員会。
- 村上 始2000『四條畷小学校内遺跡・中野遺跡発掘調査概要報告書』四條畷市教育委員会。
- 村上 始2001a『正法寺跡発掘調査概要報告書』四條畷市教育委員会。
- 村上 始2001b『南山下遺跡発掘調査概要報告書』四條畷市教育委員会。
- 村上 始2001c「大阪府鎌田遺跡の調査速報」『月刊考古学ジャーナル』No.470、ニュー・サイエンス社。
- 村上 始2001d「四條畷市鎌田遺跡」『まんだ』第71号、まんだ編集部。
- 村上 始2001e「大阪府鎌田遺跡の調査速報」『祭祀考古』第21号、祭祀考古学会。
- 村上 始2001f「四條畷市雁屋遺跡」『まんだ』第73号、まんだ編集部。
- 村上 始2003a『奈良井遺跡発掘調査概要報告書』四條畷市教育委員会。
- 村上 始2003b「大阪・中野遺跡」『木簡研究』第25号、木簡学会。
- 村上 始2004『四條畷市内遺跡発掘調査概要報告書』四條畷市教育委員会。
- 村上 始2006『一般国道163号の拡幅工事に伴う発掘調査概要報告書』四條畷市教育委員会。
- 村上 始・實盛良彦2011「雁屋遺跡の発掘調査」『近畿弥生の会第14回集會京都場所発表要旨集』近畿弥生の会。
- 村上 始・實盛良彦2013a『中野遺跡・奈良井遺跡・南山下遺跡・岡山南遺跡発掘調査報告書』四條畷市教育委員会。
- 村上 始・實盛良彦2013b『北口遺跡・讃良郡条里遺跡発掘調査報告書』四條畷市教育委員会。
- 村上 始・實盛良彦2014『四條畷市文化財調査年報』第1号、四條畷市教育委員会。
- 村上 始・實盛良彦2016『四條畷市文化財調査年報』第3号、四條畷市教育委員会。
- 村上 始・實盛良彦2018『四條畷市文化財調査年報』第5号、中野遺跡、四條畷市教育委員会。
- 村上 始・實盛良彦編2013『飯盛山城跡測量調査報告書』四條畷市教育委員会。
- 村上 始・實盛良彦編2017『四條畷市文化財調査年報』第4号、大上遺跡（大上古墳群）、四條畷市教育委員会。
- 山口 博編1972『四條畷市史』第1巻、四條畷市役所。
- 山口 博1990『四條畷市史』第4巻、四條畷市役所。

写真図版 1



1. 調査前全景（南から）



2. 第1遺構面全景（南東から）

写真図版 2



1. 第1遺構面近景（南西から）



2. 土坑107遺物出土状況（西から）

写真図版 3



1. 土坑133遺物出土状況（南西から）

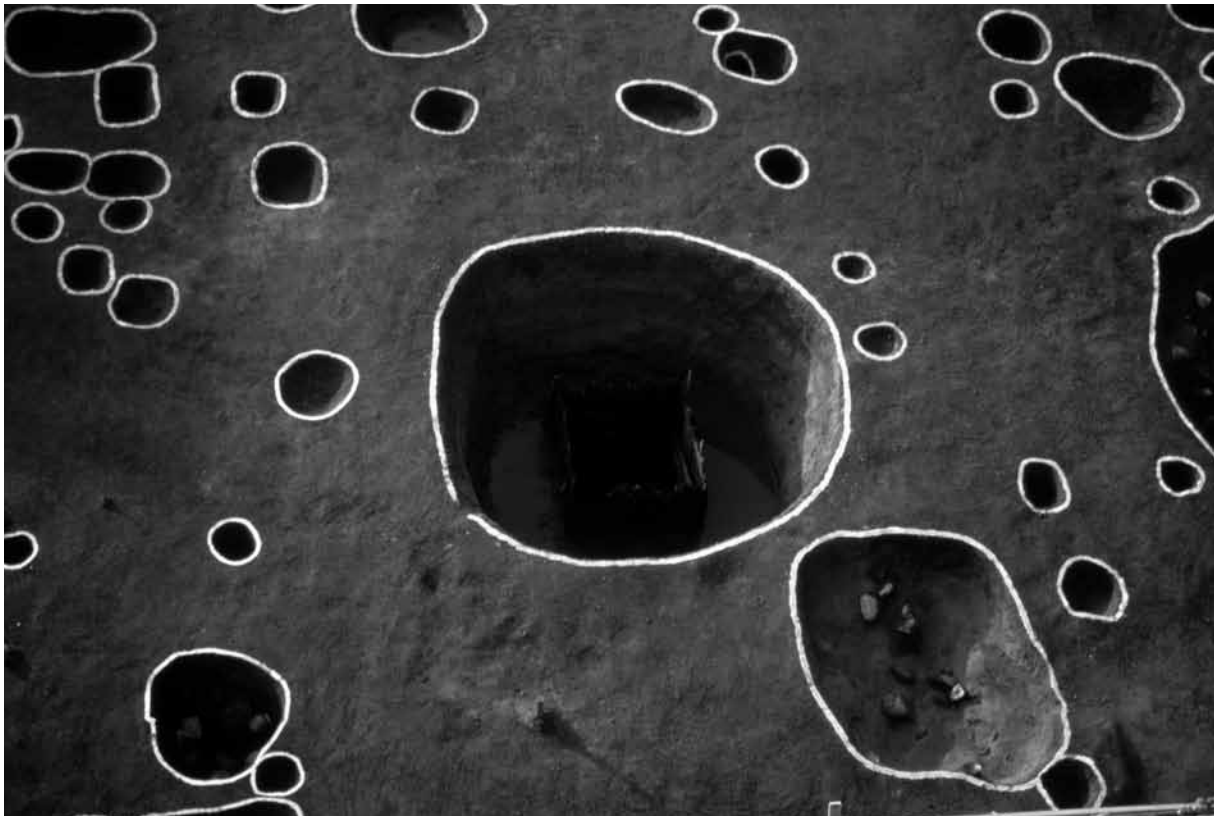


2. 土坑134石組検出状況（東から）

写真図版 4



1. 溝4遺物出土状況（北西から）



2. 井戸1全景（南東から）

写真図版 5



1. 井戸1 井戸枠内検出状況 (西から)



2. 井戸1 断ち割り状況 (西から)

写真図版 6



1. 井戸2上層（土坑102）遺物出土状況（南東から）

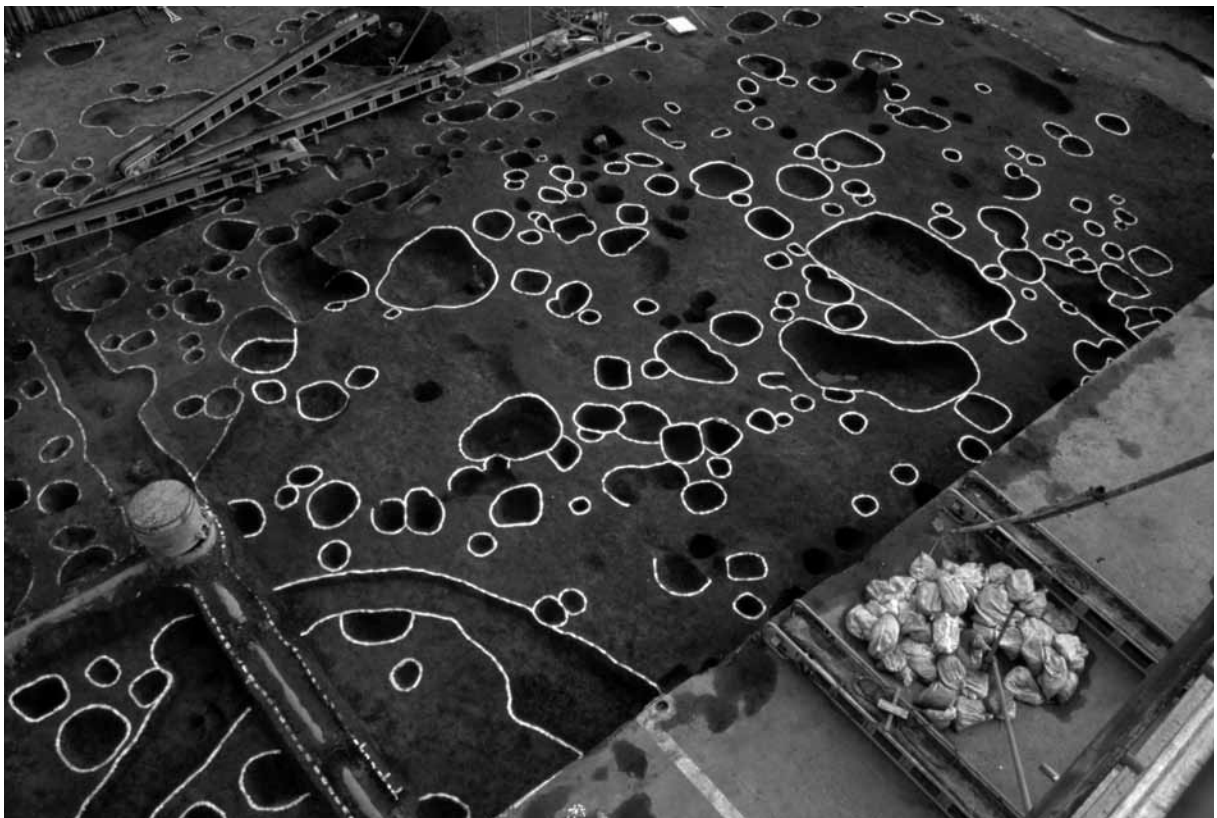


2. 井戸2井戸枠内検出状況（西から）

写真図版 7



1. 井戸2 断ち割り状況 (北から)



2. 第2遺構面全景 (北西から)

写真図版 8



1. 出土遺物 (包含層)



2. 出土遺物 (石鍋)



3. 出土遺物 (砥石)

写真図版 9



1. 出土遺物（砥石）



2. 出土遺物（紡錘車）

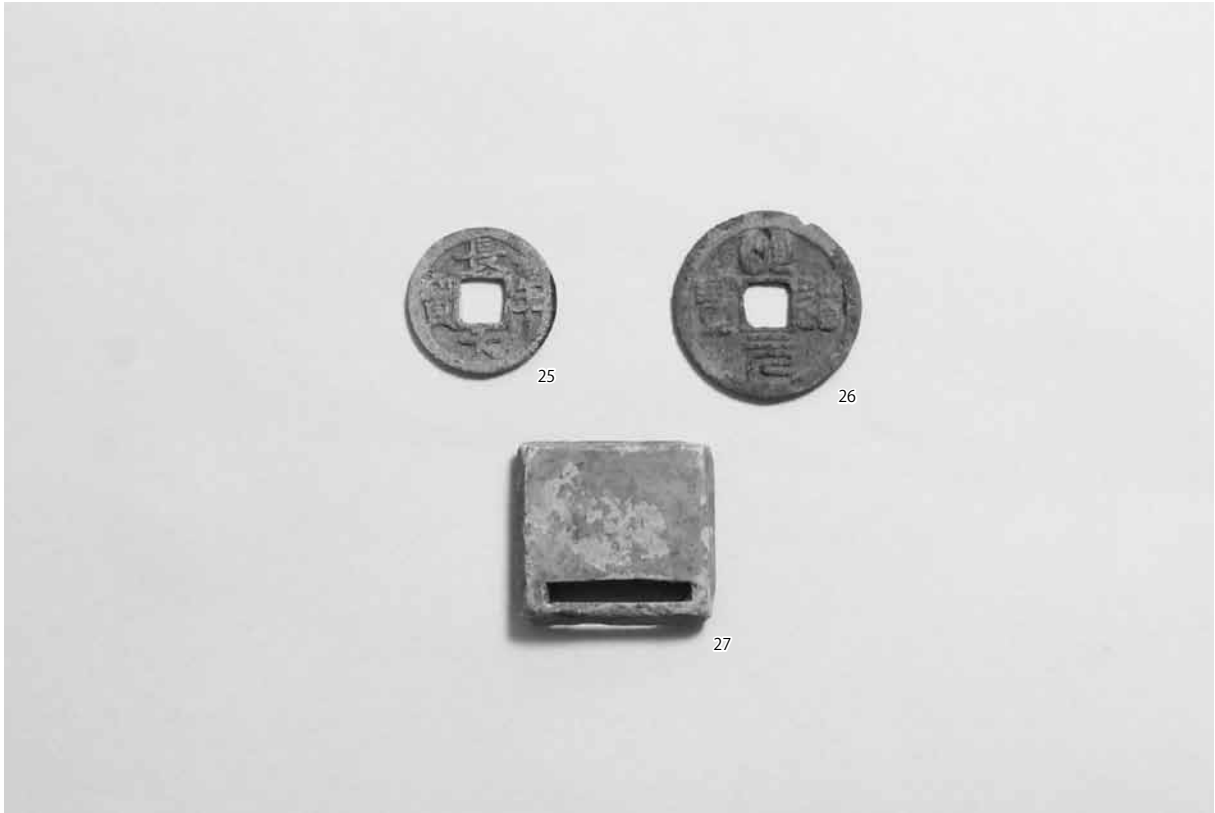


3. 出土遺物（井戸2 砥石）

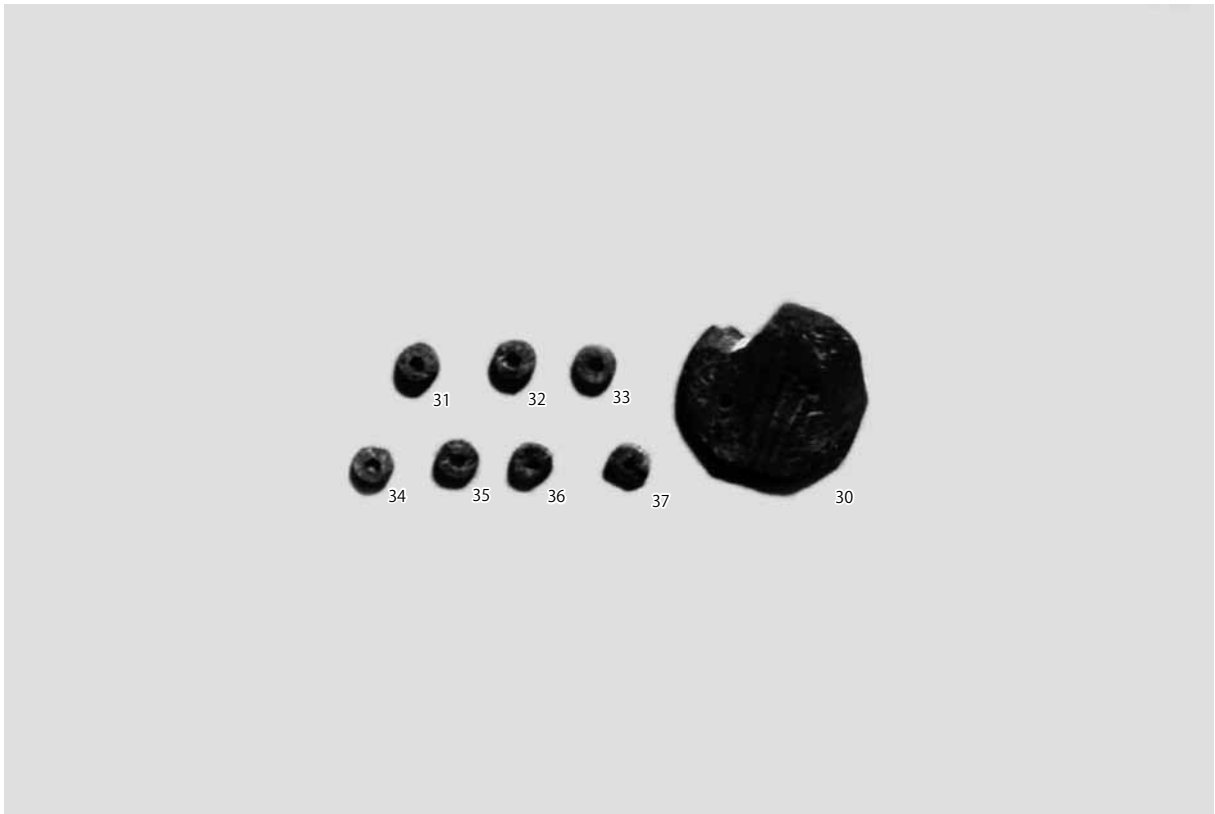


4. 出土遺物（井戸2 青白磁合子）

写真図版 10

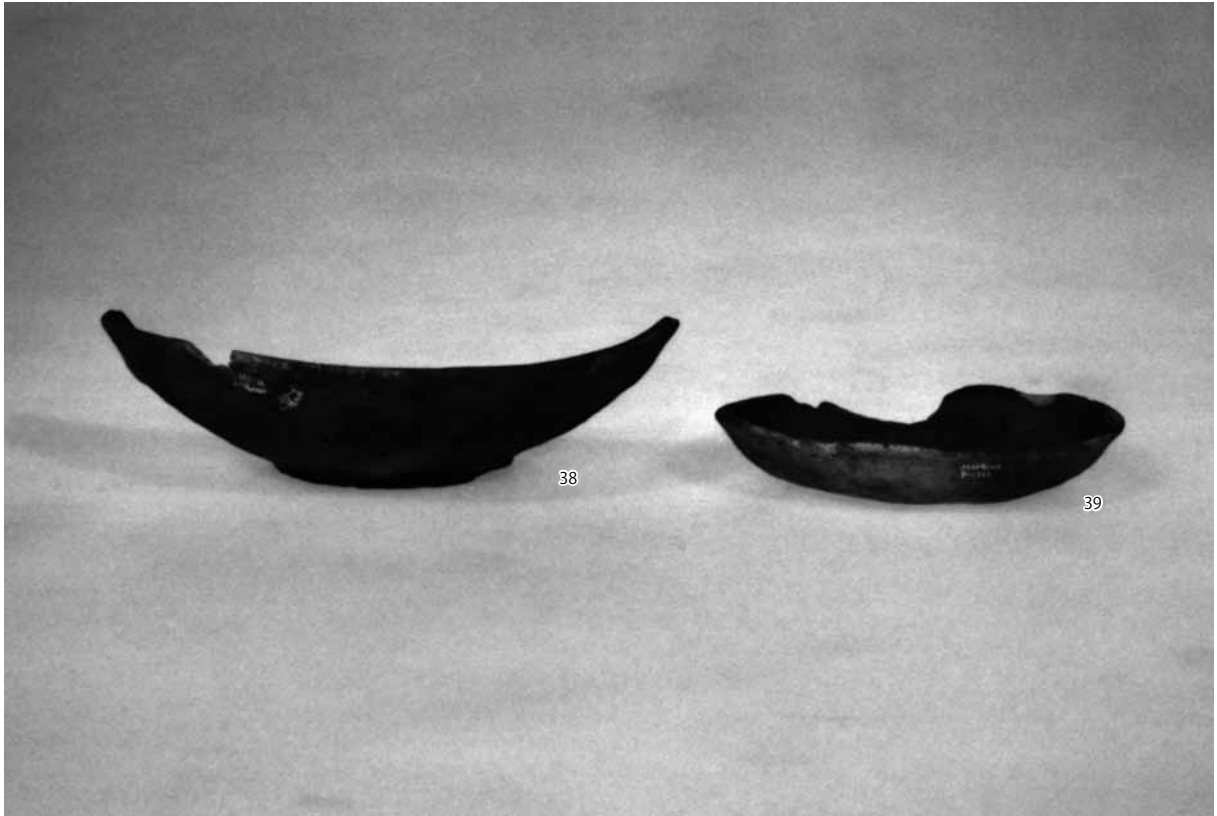


1. 出土遺物（銅錢・巡方）



2. 出土遺物（滑石製品）

写真図版 11



1. 出土遺物 (土坑101)



2. 出土遺物 (土坑108・110・130・136・Pit178)

写真図版 12



1. 出土遺物 (土坑133)



2. 出土遺物 (土坑107)

写真図版 13



1. 出土遺物 (土坑107)



2. 出土遺物 (土坑107)

写真図版 14



1. 出土遺物 (土坑107)



2. 出土遺物 (土坑107)

写真図版 15



1. 出土遺物 (溝4)



2. 出土遺物 (溝4)

写真図版 16



1. 出土遺物（溝4製塩土器）



2. 出土遺物（井戸2（土坑102））

写真図版 17



1. 出土遺物（井戸2（土坑102））



2. 出土遺物（井戸2曲物・墨書発見時）

写真図版 18



1. 出土遺物 (井戸 2 曲物・赤外線写真)



2. 出土遺物 (土坑202)

報 告 書 抄 録

| | |
|-------------|---------------------------|
| ふ り が な | しじょうなわてしぶんかざいちょうさねんぼう |
| 書 名 | 四條畷市文化財調査年報 |
| 巻 次 | 第6号 |
| 副 書 名 | 中野遺跡 2 |
| シ リ ー ズ 名 | 四條畷市文化財調査報告 |
| シ リ ー ズ 番 号 | 第57集 |
| 編 著 者 名 | 村上 始・實盛良彦 |
| 編 集 機 関 | 四條畷市教育委員会 |
| 所 在 地 | 〒575-8501 大阪府四條畷市中野本町1番1号 |
| 発 行 日 | 2019(平成31)年3月31日 |

| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | 市町村 コード | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|-------------------------------------|------------|-------------------|--------------------|--|-----------------|---------------------|
| なかのいせき 中野遺跡 (NN1991-1・ 2000-1) | しじょうなわてし なかのほんまち 四條畷市 中野本町 | 272299 | 34° 44' 24" | 135° 38' 24" | 平成3年11 月11日～平 成4年1月 22日 平成12年5 月9日～平 成12年5月 22日 | 748㎡ 37㎡ | 市役所庁舎 建設 擁壁設置 |

| 所収遺跡 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|-------------------------------|-----|------------------|-----------------|--|---|
| 中野遺跡 (NN1991-1・ 2000-1) | 集落跡 | 古墳、 平安、 中世 | 井戸、溝、 土坑、Pit | 土師器、須恵器、黒 色土器、瓦器、土製 品、金属製品、石製 品 | 「應保二年」銘墨書曲物 井戸枠を検出。青銅製巡 方、皇朝十二銭など官衙 関連資料の出土。 |

四條畷市文化財調査報告 第57集

四條畷市文化財調査年報

第6号

中野遺跡 2

平成31(2019)年3月31日発行

編集 四條畷市教育委員会

発行 四條畷市教育委員会
大阪府四條畷市中野本町1番1号

印刷 株式会社 近畿印刷センター